百三十六年には高等の研究を奬むる一專門學校建設せられたり。

英國各植民は初め商業上絶對の自由を得たりしをクロムウエルによりて廢止せられたり、されど彼等は多少の制裁を附せらるゝには協定するも全然その自由を失ふ事は斷乎として之を峻拒せり、就中植民地中最も繁榮なるマサチュウセッツは特に其意氣壯にしてチャアルス二世の代官に答て曰く、王は我等の自由を擴大し得るも之を減縮するの權能を有せず」と。當時スチュアアト家は專制權を樹立せんとして最も熱心に努めたりしか、遂に之を植民地に及ぼし、マサチュウセッツは爲に一時其特許權を失ひたりしが一千六百八十八年の革變によりて再び之を復したり。

一千七百三十九年ウォルポオルは植民地に課稅せんとするの思想をほのめかして曰く、「予は全老英國を余の敵としたり、彼等は又小英國をして余が敵たらしめんと欲するか」と。

七年戰爭は政治上よりすれば英國のために多大の利益を享したるも其財政はために大に窮乏し、國債一億磅の巨額に對し、其年利は二百七十二萬磅を支拂はざるを得ず、其財源に困じ該戰後小ピットの養父グレンヴル卿の內閣の下に議會は亞米利加植民地に印紙稅を賦課したり、之がために植民は法定の文書には倫敦にて貼印したる用紙を高價を拂ひて求めざるべからざるに到れり。（時に一千七百六十五年）されど植民は此課稅の不當を絶叫し極力反對を試みたるかため次年遂に廢止するの止むなきに到らしめたるも、是か代りとして翌一千七百六十七年新にガラス、紙、茶に課稅したり。

是に於て植民は英國市民たる者は代議の協贊を經ざる租稅を納むるの義務なしてふ英國憲法の大綱領を換言して、其課稅を拂ふを拒み、九十六市の委員はボストンに一議會を開き、請願の容れらるゝ迄は英國の商品一物たりとも購求せざることを議決せり、ために一千七百六十九年亞米利加に向ふ輸出額は六十萬磅の小額に減じ、時の宰相ノヲルス卿は通商の衰頽を慨し遂に茶稅以外の課稅を廢止したり。されど植民は此半讓步を以て滿足せず、ボストン血氣の住民は英國より入港したる一商船を襲ふてその積荷茶を海中に投じたり、此報に接し、英國議會はボストン港の輸出入を杜塞せり、一（時は一千七百七十四年）。是に於て各植民地は委員をフヒラデルヒヤに出し、總會を開き此議決を裁して英主に請願書を呈したる

も容れられず、遂にイキリアム・ヒットが先見は其的を射て戰爭は曝破したり。

亞米利加獨立戰爭（一七七五―八三年）

米國大陸戰爭は三方面に於て開始せられたり、其一東北方則ちボストン、紐育費府の近傍、其二西北方則ち加奈陀方面、米人は此地の佛人を味方に誘引せんことを努めたり、蓋し英軍此地より植民軍の背後を突くの恐れあり、其三南方則ち南カロリナのチャアレストン近傍英軍此地に海軍を利用するの便あり。勢此の如くなるを以て米軍は兵力を三分し、且其軍隊は遠距離の行進を成ざるを得ざる不便に會せり、而して佛の加擔せるときは既に交戰區域擴大し全海岸悉く硝煙の巷と化したり。

印度の會戰に米軍成功を得大に其士氣を鼓舞したり則ち一千七百七十五年米の民兵はレキングストンに英の派遣軍を敗り、英將ゲエジを三萬の兵を以てボストンに包圍す、蓋し此大衆は只だ烏合の群にして未だ軍隊を成さず、之を統一ある兵勢に組織することは當局の急務なり茲に於て議會は七年戰爭の際植民地士官として佛勢に對戰して驍勇を顯はしたるヴァジニアの一栽培者ジョオジ・ウシントンを擧げて大元帥となせり、而してワシントン此地に兵士の訓練をなし各隊の部署軍略を定め居たるの間、既に西部植民軍は加奈陀を侵しモントソアルを降したり、されどキィベックの攻圍に其指揮官モントゴメリイを喪ひ、ためにカアルトンに此市を逐はれ、次て該州より驅除せらる。此際ワシントンはボストンを降して之が僅少なる報償を得たり、時に一千七百七十六年三月十七日なり。

かくて一千七百七十六年七月四日フィラデルヒヤの議會は米國十三州の獨立を宣言し次で同盟條例を發布し、各州はその宗教及び政治上の自由を保有する事を定めたり、宣言書は次の主張を以て有名なり、蓋しこは佛國哲學の系統より胚胎せるものゝ如し。曰く、

「總て人は本來平等なり造物者は之に賦するに決して移し得べからざる權利を以てす、此權利を確保せんが爲めに治者は各人間に設けられ、而して被治者の承認を經て之に正當の權利を賦す、されば統治の體形如何を問はず、此目的を破壞するものあるときは之を變革し廢弛するは一に人民の權利なり」と。

英國は一萬七千の傭兵を日耳曼諸侯伯より購ひたり、而して米の義兵は軍需品に乏しく又軍資の缺乏を告げ將に自己を支ふる事だによくせず、焉んぞ供給充分

にして百戰の練磨を經たる此等老功の兵士と會して勝算の期あるべき。英將ホウは連戰勝を占めて紐育を降し、ロオド島を陷し、ワシントンをブランデイワイン河に壓迫し、一舉フィラデルヒヤを擊滅せんずる猛威を示せり。華聖頓軍は震慴す、遂に九月十一日フィラデルヒヤを放棄してメリイランドのバルチモアに退きホウ將軍は直ちに費府を占領す。悲運此の如くなるも米の元帥は毫も屈せず此戰爭を惹起したる正義を保有するの道を知れり。十月十日ゼルマンタウンに攻擊され又よく大敗を免れたり。ワシントンが此隱忍耐久の苦衷こそ此國を拯ひたる基なれ、彼はホウ軍をチェスピイク灣附近に支へ以て加奈陀より新鋭の精兵を率ゐて進軍しバアゴインとの聯絡を絶ち、而して部下の精兵を分ちて西部の義兵に援助し、九月十九日サラトガにバアゴインを支障して之れを圍み、十月十七日遂に降伏せしめたり。

時に佛國は此獨立を承認し、私かに援助を與へて熱心にその成功を祈り、和蘭亦之を贊して武器を賣れり。既にして米議會は令譽赫々たるフランクリンを使節として佛國に遣はし、從來間接の勢援を更に擴張して攻守同盟せんことを求めしむ。フランクリンは佛國民の熱心懇切なる歡迎を受け、就中年少貴族ラファイト公は新英民の意氣に感激し、七年戰爭の屈辱を雪ぐの機又此時に在りとし、年齡未だ廿を充たざるにその最愛の妻を斷ち船を艤して武器を積み硝煙の地に航しぬ。輿論は之を歡迎すること切なるも、佛政府は再び英と不和を釀すを懼れて容易に之と結ばんとせず、ツルゴウは英國がその植民地の獨立を承認するの曉多大の要求を提起すべきを豫想し、中立保持を主張し、ド・ヴァルジイン又マドリッド內閣と歩調を共にし間接の援助を與ふるを以て足れりとし、密かに軍資金を供給せり。

されどサラトガの大勝は俄かにルイ十六世の臍を固めしめ、フランクリン及びその閣臣の哀訴を容れ、一千七百七十八年合衆國と通商條約を訂結し、英國に對して攻守同盟を結びたり、かくて英國大使は巴理より國旗を撤して還りぬ。

英政府は事端愈〻重大となりしを見植民地に許すに曩の要求を以てしたれども時期已に遲く、米民はその獨立を承認せざる以上如何なる讓歩も肯んぜず、依然戰爭を繼續したり。

時に佛の海軍はショワズウルの本に復興し稍勢威を張るを得たり、一千七百七十

八年十二隻の軍艦と四隻のフリゲエトはデスタン提督指揮の下に亞米利加に向てツウロンを發航し、他艦隊はブレストに武裝して歐洲の海洋に備へ、陸軍は英國侵寇の準備を成せり。かくてテベルボール號英の一フリゲエトを砲擊し敵對行爲に入る。同年七月廿七日ドルギリイ伯は卅三隻の艦艦を率ゐてブレスト港を發し、英提督ゲペルとウウザント附近に會々激鬪し勝敗未決にして軍を退きぬ。英國は自國の海軍が佛海軍と戰ふて勝利相半ばしたるを見て其將の不能を憤り提督を軍法會議に附したり、蓋し英國は戰ふて勝利を得ざるものは敗軍と同一視したれはなり。

亞米利加に於ては、英大將クリントン、フイラデルヒアにワシントンの陸軍及びデスタン提督の佛國海軍とに攻圍され、餘義なく此地を棄て紐育に向ふ途上モンマウスに痛擊を受け漸く退却せり。彼は己を追及せる敵軍を牽制するがためカムベル大佐をジオルジアに派遣す、此に於て戰線南部植民地に擴がり、遠くアンチイルズ崎に及び、此地に佛軍ドミニカを略し、英軍又聖リュウツアを取り勝敗相半せり。而して印度にては佛はポンディシェリイを失ひたり。

佛宰相シュワズウルは此際その手腕を外交に振ひ西班牙同盟を復興し、之をして調停策を更に建言せしめたるも英之を肯んぜず。是に於て西國は佛相ヴァジイル伯がジブラルタル、ミノルカ及びフロリダ回復の好期此時を措て求むべからずとの慫慂に基き、一千七百七十九年英國に對して開戰を宣し佛の艦隊と相合せり。佛は此聯合艦隊によりて得る處なかりしも、デスタン提督英將バイロンと戰ふて之に勝ち、グレナダを占領したるを以て稍慰むる處を得たり。此報巴理に達するや戸々相祝賀せり、當時英提督ロット ニイ負債のために此の地に止まりしが、一日ビロン將軍と食卓を共にせる時此勝利を嘲詈し、己若し負債だになく自由の身なりせば之を覆すること容易なりと廣言しけるに、俠氣なる大將は赫と激憤し立處にその負債を償却しやり、告て曰く、「君よ、去れ、願くば貴下が約言を食ざらんことを努めよ、我等佛國人民はさる障碍のために勝利を得たりといはるゝことを欲せず」と。

此任俠の所爲は實に佛に取りて尠からざる損害を招かしめたり、彼は西班牙艦隊を擊破し佛西聯合軍を以て包圍するジブラルタルを救援し、翌一千七百八十年

アンチイルズ諸島に於てギイチン伯と三度會戰して之に勝ち、其約言を事實に履行せり。而して伯は佛國人の歸途六十隻の英國輸送船に會し之を拿捕し、五千万法の償額ある分捕を得て曩の失敗を償ひたり。

一千七百八十年は英軍の利ありし年なり。クリントン將軍の南方に試みたる牽制策其圖に中り、オルジアを占領す、此の成効によりて士氣を恢復し一新作戰を計畫せり、即ち彼は當時已に米人一般戰鬪に倦み、專ら救を西佛兩國に依賴しワシントン亦部下の士卒の無爲により漸く活動弛緩なるを洞觀し、一陣を卒して紐育を發し、南カロリナにチヤアルストンを降し、此地に五千を捕虜となし、又其將コルンウォリスは此地恢復の命を受けたる米の寄手を擊退したり。

佛提督デスタン伯が開戰前に入港せんとしたるサヴァンナに於て一時英軍の防遏を受くるや、大に米軍を危ふするに到りぬ、されど此際歐洲列强間に英國の海上に於ける專横に對して一大對抗運動起り之を脅威せり、即ち佛西兩國か北歐諸國より武器軍需品を購求せるを防害せんがため、英は中立國の船舶を抑留し臨檢し拿捕したるが爲め、中立國の通商は多大の損害を蒙り、恐惶を起し遂に一大紛議を

醸したり。一千七百八十年露后カザリン二世は彈藥彈丸大砲等の戰時禁制品を積載せざるを條件として國旗の自由を要請し、之を支持するがため武裝局外中立を宣言せり、次で瑞典、丁抹、普魯西、アウストリア、葡萄牙、兩シシリイ及和蘭等是に傚へり。之に於て英國は中立國中最劣弱なる和蘭に對し開戰を布告せり。而してロッドニイは此時和蘭の植民地なる聖ユウスタチアスを襲ひ、此地に一千六百萬法以上の價額ある分捕を成せり、されど之は驍勇を以て聞ゆるラモス・ヒケによりて英國海岸に奪還せらる。

次年(一千七百八十一年)英國は殆ど其重荷に耐へざらんとせり。佛はロシャンボオを以て軍資と軍隊とを米國に增遣し、新鋭の合盟軍は頻々として連捷す。西班牙軍はフロリダにペンサユラを略し、グラッセエ伯は英領アンチイルズを荒掠せり、伯の驍勇はその部下の海兵を大驚嘆せる處にして、曰く大將は丈六尺なれど戰の日は更に一寸を加ふと。その大勝は米軍に好影響を及ぼし、爲めにワシントン、ロシャンボオ及びラファイエット等亦頻りに米大陸に勝利を占む。一千七百八十一年十月十一日英將コルンウォリスは兵七千、軍艦六隻商船五十隻を擧げて米軍に委し

ヨオクタウンに降を乞ふ。此戰役中英軍の降伏したる第二例あり。此偉勳は亞米利加獨立を確立せしめたるものにしてまた英國をして爾來專ら防禦の地に立たしむるに到れり。之と時を同ふしてボアイリイ侯は聖ユウスタチアスより英兵を逐ひ、クリヨン公はミノルカを占め、又佛海兵中最も驍勇を以て知られたるサフランは和蘭植民地保護のため東印度に派遣され、一千七百八十二年二月より九月の間に四回の海勝を得、此時已に彼はマイソオルの王ハイダル・アリイと結びて印度大陸に於ける英大國の權勢を擊破せんとの大企畫を成したり。

アンチイルズ諸島に於ては英は僅かにジャマイカを保持したるのみ、一千七百八十二年ドグラッシイ之を襲ふたるをロットニイの卒ゆる大軍に敗られ、遂に擒る、此役彼が船員中負傷せざりしもの僅かに三人なりしといふ、以てその苦鬪奮戰を察すべし。失敗軍(レ・サントの戰)はその結果に於て重大なるものを齎らさざりしも、輿論は甚だ重大事件と做し、聊か前途を危憂したり、但し世人は此敗戰は佛が此役に於て初めて嘗めたるものなることを忘失せるなり。

更に佛西聯合軍を防遏し之を惱ましめたるはジブラルタルの巧妙なる死守とす。此攻圍は世界の人目を惹きその成果如何を期待せしめたるものなり。ルイ十六世の皇弟ダルトア伯は自ら請ふて此地に來り、二万の軍兵と四十隻の軍艦とを以て之を封鎖せり、九月十三日二百門の巨砲は瑞西より十ヶの浮砲臺は海上より一時に其嶄岩に向て激烈なる砲火を注げり、有繋の天險も、はた要塞司令官エリオットの勇氣も此に至りては如何とも、成す事を得ず、その命將に風前の燈の如し。六百の火彈は浮砲臺に向て擲げられたるも何等の効を顯はさず、偶最後の一彈ティラペルダ號の風上舷に着彈したるを乘艦員之を知らず、暗默の中に火は擴がりて火藥庫に到り之を爆破し、其餘火飛で隣艦に移り、次で西班牙艦隊は英軍の捕獲を免れんため殘艦を燒盡す、此攻擊に於て斃れたるもの一萬二千、されどジブラルタルの要塞には依然英國旗飜れり。

假令ジブラルタルの天險は陷落せざりしも英國の既に從來海上に於て無敵なりと認められたる令譽を失ひ、その通商は殆と杜塞し、國債は一億磅を增加し、國勢日に益非なり、時に主戰派の領神ノオルス卿は內閣を去り、ホイック黨之に代り佛國と媾和を提議せり。此役佛國の費消したる資財十四億万法の巨額に達したるを

破り、少くとも之に因りて高尚雄大なる一結果即ち合衆國の獨立を購ひ得たり。一千七百八十三年九月三日條約の調印を了す、佛は之によりて曩にユウトレヒト條約中最も屈辱とせるダンカルクの一條欵を抹削することを得會稽の耻辱を雪ぎたり。而してシャンデルナガル、ポンディシェリイ、カリカル、マヘ及びスウラットの印度諸領を復し、アンチイルズ諸島に聖リュウシカ、及びタバゴを、亞非利加にゴリイ及びセネガルを獲得し、乃至聖ピイル及ミケロン島を得、ニュウファウンドランド沿海漁獵權を併せ獲たり。西班牙はミノルカを復したり。此戰は佛國に諭ゆるに下の教訓を與へたり、則ち佛國にして一旦猶猛然して其臍を固むるに於てはよく英國と相爭ふて海上の覇權少くともその自由を確保し得ることを。

平和は克復したりと雖もワシントンの勞は未だ終らず。今や無用視せらるゝと誤解せる兵士の不平を癒せざるべからず、總て彼等の運定めらるゝや、ワシントンが掛冠の志は固くして易ゆべからず、遂にポトマック河岸葡萄樹樅樹欝蒼せる木蔭ヴァジニアのマウント・エルノンの住家に素朴布衣の一野人として國家の獨立を開基したる不朽の光譽を荷ふて平靜なる生活を送りぬ。

合衆國の獨立によりて英國は亞米利加植民地の大部分を失ひたるも尚英領北亞米利加及アンチイタルズを領有す、亞非利加にはガムビア河岸に數多の要塞と製造所とを有し、其他シイエラ・レオンの植民地黄金沿岸のゲエマコオスト及聖ヘレナ島を有し、また太平洋に於ける新世界を開放しボタニノ灣に流刑囚を送り、一千七百八十八年シドニイを開設す、印度に於てはチッポ・サヒッブの効果なき抵抗を受けたるも益々その擴張を企畫せり之を要するに英國は此戰役に於て敗戰したりと雖も尚世界に於ける通商海事國中最優越の地歩を失はざりき。

第二十八章　波蘭の滅亡、土耳古の衰頽、露西亞の隆運、

ピイタア大帝よりカザリン二世に到る間の露國　太西洋の對岸に一新國民呱々の聲を擧げたるの時老歐洲に於ける一舊邦は數年前強國の伍班に入りたる一強國に抱懷せられ、將に逝かんとす。

ピイタア大帝の眞の後繼者は女傑カザリン二世なり、但し此間に來たる露皇を

叙すれは、大帝の妃カザリン一世大帝に次て即位し、メンチコッフを宰相とす、彼大帝の遺圖を承けて着〻經營を怠らず、此勢力は不運なりしザレキッチ、アレキシスの男ピイタア二世の期に到りて最も振ひたり。されどリュリックの後裔なりといふイヴン・ドルゴロオキ、一旦帝の寵を受るや、彼は貶され、西伯利亞に謫居せしめらる。ピイタア二世は一千七百三十年僅かに十五にして夭死し、ドルゴロオキ黨及びガリッチン・黨はさる條件の下に彼得大帝の皇姪なるコォルンドのアンを立つ、若し眞に此條件實行せられなば彼得の功業も爰に瓦崩し露國は再び貴族政治の跳梁を來たせしなり、これぞ貴族が政權を再握せんとしたる第一企圖なり、一千八百二十五年の謀叛は即ち第二回の擧なり、其間貴族の帝王を弑逆したるもの三、即ちその毒刃に斃れたる帝王はイヴン六世、ピイタア三世、及びポウル一世とす。

アン女皇は自己の權力を拘束したる、制裁を離脱するに敢て大困難を感んぜざりき。則ちガリッチン黨を誅戮し、ドルゴロオキ黨を西比利亞に遷し、萬事を擧げてクウルランドの一農夫の子、嬖臣ビレンに托し、彼は己の忌疑に觸るるものを悉く捕へて死に致したり。遠き西比利亞だも彼が忌諱を恐れてドルゴロオキ黨の諸公を保護する能はず、その四人を割き他を刎首せり。之に座して憂國者の悲慘の最後を遂げたるもの一萬二千、追放流謫さられたるもの二萬人。一千七百三十七年アンはクウルランドの貴族の抵抗を排してビレンをその領主に擧げたり。此の如く暴虐を以て充ちたる此御宇にも、また赫燿たる功業の傳ふべきものあり。アンは彼得大帝に倣ふて多く外國人を宮中に聘し泰西の文明を吸收するに努めたり。露國は波蘭繼承戰に與りて大にその威を張り、國民の撰擧主たるスタニスラウス・レクヂンスキイを一千七百三十四年タンヂックに圍み、之を敗走せしめアウガスタス三世を立つ、當時の史家之を傳へて曰ふ「此戰の間僅かに三百の露兵は三千の波蘭軍に面して決して背を見ることなかりき」と。露將ラスシイ(愛蘭人)はアゾフを侵し、一千七百三十六年日耳曼産の慓悍なる露將ミュニッヒはペレコップの諸城を一蹴してクリミアを横斷し、次年アウストリアと同盟し、ニイパア河畔の土國の要砦オチヤコフを襲ふて之を降し、一千七百三十九年ニイスタ河畔のコヲヅムを略し、一千七百十一年彼得大帝を煩ましたるプルウス河を踰えてジェッシイに侵入す、彼更にダニュウブ河を亘りてバルカン半島に出でんと欲し、先づ希臘人の謀

叛によりて君士坦丁堡を奪ひ得べしと確信し、軍を進ましめたるに豫期全く齟齬し、一千七百三十八年墺軍オルフヴァアに敗し、次て翌年ベルグレードの附近クロッカに大敗す、ために餘義なく、此等の諸征地を回復するがため露軍をしてベルグレード條約を訂結せしめたり(時に一千七百三十九年)。精悍猛烈のミュニッヒは往々その蠻勇の點に於てスウワロオと對照比較せらる、オチャコフの攻城の際敵の猛火に震慴して士卒進軍を拒むや、彼は却て其砲門を逆にしてまづ之を擊たんとし、士卒の假病して後衛に止まらんとするものあるを見るや、彼は軍隊に疾病を許さず、もし之に罹るものあるときは生埋すべきを令す、翌日三人の兵士は此慘刑に處せられたり。

アンは嗣帝としてその甥則ち皇妹ブランスヰック公爵夫人の男イヴァン六世を擧ぐ。該太子此時未だ搖籃の中に在り、ビレンを以てその攝政となす。而して公爵夫人はミュニッヒを寵してビレン攝政たること僅かに一ヶ月にして西比利亞に流謫せらる。大公等はかく外國人の帝室政權を恣にするを見て大に憤慨し、彼得大帝の第二王女エリザベスは日耳曼產のレストックを將としてプレオブラインスキイ聯隊より百五人の擲彈兵を率ゐしめ、王城に侵入して之を占領し、公爵夫人を獄に投ず、イヴァン六世は帝宮の一室に幽閉され、後廿年にしてその術士のために弑せらる。

かくて外國人に對する懼るべき反動生じ、ビレンは西比利亞より召還され、ミュニッヒ代りて此地に流謫さる、彼此に止まること廿年。其他自餘の外國人又彼と其運命を同ふし、之を遁れたるものケイス、ラスシイ、ロオエンダル及び數學者エウレル等にして甚だ僅かなり、而してミュニッヒに代りて全權を握りたるは露人ベスチェチェッなり。一千七百四十一年より六十二年に到るエリザベス朝は露國に取りて禍殃を來たしたるものなり。則ち內政に於ては彼得大帝の施設を根本より破壞したり。女皇は死刑を廢して更に之れに倍する最惡なる西比利亞の流刑を發布せり、之れによりて彼得大帝の時の如く首級は斷たれざりしと雖も住民の多くば氷の墓に輸送せられたり、實に此に流されたるもの八百人の多を算せり。外に對しては芬蘭を征服したるを一千七百四十三年英國の干涉ありて漸く其一小部分を保留し得たり、また小末の動機を楯としてフレデリッグ二世に對し無禮なる戰鬪

を開始し、その兵の兇猛なる普國も荒廢に歸せんとするの觀を呈したるも女皇間もなく薨じたるを以て漸く之を免れたり、女皇の後を襲ひたるはピイタア三世にして、帝はホルスタイン・ゴットルプ公と彼得大帝の長女との間に生れたる男なり。帝は前女皇と直反對に出で甚だしくフレデリック王を稱嘆し、彼と同盟を結び其軍隊をして全く彼に倣はしめたり。帝不能にして治世久からず、彼その妃の放縱なる性行を責罰せんとするの時、妃却て之に先んじて彼を廢し絞殺に附せり、此女即ちカザリン二世なり。

露國の西漸を妨くるものに三國あり、則波蘭瑞典土耳古是なり。而してカザリン二世は第一を取り、アレキサンドア一世は第二の半を取れり、次でニコラスは第三を全部横奪せんと欲し、既に其企圖の實行にかゝるに及び全歐は起て此野望を抑制せしめたり。

昨漸く產れたる此國民は如何にしてかしかく威勢赫々たる四隣を侵すことを得しぞ。而かもその人民はよし大衆なりと雖もその勢力たるや微弱なるに。

瑞典は曩にチャアルス十二世の爲にその最後の兵最後の貨幣を消盡したる以來、爾かく高價を値する戰爭を擧げんには餘りに貧、大軍と戰ふて之が勝を占めんには住民餘りに稀薄なり。その勢力を恢復せんがためには時と休養を要す。此機に乘じて露國は瑞典國の一政黨を買收し、密計と金錢とを以て、ガスタヴス三世の朝に到るまで瑞典を附屬國としたり。

土耳古は堅固なる要塞と豐饒なる領土とを有したるも曩日の勇往奮進を喪失せり。歐亞を席卷し蹂躙してより後は專ら幕內に生活し、富と權勢とに心腐爛し、亦再び東洋的喪心の狀態に還沒せり。蓋し之に到らしめたるもの一はその宗教の運命觀與て力あり。尙況んや活動と野心を過度に費消したる後には、必然過度の休息と懶惰とは避くべからざるものなるに於てをや。牢獄より玉座に移りたる代々の土帝は人を知らず又物を知らず、その閣臣も亦同一なり。萬事金錢に使役せらるゝの惡習風は文武兩道に於ける有ゆる秩序規律を全く腐敗せしめたり。

周圍の世界は日々進步して止まざるに土耳古は依然その舊地に停止し、十五世紀に於てこそ世界最美のものなりと誇稱したる軍隊組織も其後何等の改善進步を見ず、今は全く劣惡のものと成れり。親衞兵は曩に勇敢を以て其名を轟かした

るも現時外部よりの侵襲を防ぐに足らず、却て內國擾亂の種子となりぬ。回々教徒は基督教徒と雜婚融合を忌み、之を憎みたるため其人民は漸次減少し、其數はボスホラスの北方に幕營せる一軍隊に加かず、却て被征服者は土帝の寬容の下に生存を保ち、現に彼等に對して二三倍の大人口を有するに到り、而して此は外國人の陰謀密計に其耳を開き其手を貸すに到りぬ。かくて大數に臨みて之を重壓したる此等小數者は幾多の危險に圍繞せられ、殆ど二世紀間に其進攻的性質を失ひ、其敗惡不善を增長し、全く其勢力を失墜せしめたり。事情此の如き下に於て、マハメッド二世スウレイマン一世の慓敢武烈の記憶回想も今は既に何等の戰慄畏懼を歐洲に惹起せしめざるに到りたる、毫も怪むに足らざるなり。

如是退化衰頽を極めたる土耳古に猶未だ之を滅さずよく之を支ふるに足るの中軸、即統治者を有したり。されど波蘭は全く之だになし。波蘭は天然の境界なき空漠なる平野にして、地理學的に最も惡しく造られたる國家なり、殊に之に倍して劣惡なるは歐洲の國家、文化と全く背馳したるその國家組織なり。三四世紀間蒙古族、露人、乃至土耳古人に對して戰ひたる壯烈なる奮鬪は克く勇敢なる貴族を發達せしめたるも何等の代議民を有せず又人民を有せず、農夫は奴隸にして十萬の貴族は、皆均等の權利を握れり。されば總議會に於て一代表者の反對は萬事を爰に杜塞せしめたり。議會にして數貴族の嘉納せざる提議に協贊を與ふる事あらんか彼等は直に合同して之に當る、此の如き武裝する又抗は又適法なりと是認せられたり。畢竟一波蘭人は自己が裁可する法律をのみ遵守するの義務ありとせり。こは理想としては た學說として甚だ美なるも、到底現實せらるべきものにあらず、されば波蘭は之がために恒に無政府の狀態を現出したるなり。一千五百七十二年彼等はその君主を戴するに選擧法を用ゆるべきことを議決せり、此組織はもし選擧の際甚だしき紛紜を釀さざりせば甚だ佳なるべく、政治的はた社會教育を充分に施されたる最も進步せる最も整備せる國民にのみはじめて可能なるを得べきものなり。實に波蘭は之がために自己の衰弱を招き紛亂を起し、外國人の陰謀を逞ふせしむる門戶を開きたり。ただに之に止まらず、當時全歐洲各その國王に獨裁權を賦與し、一國民の全權を擧げて一人の王皇に集注せしむるの時に於て、彼等は其選擧王に法律を制定するの權を與へず、軍隊を統帥するの權を賦せ

ず、はた司法權を行使するの權利を寄せず、全く屍位空權に居らしめたり。ガスタヴス・アドルフス、チュウランヌ、フレデリック二世等の戰術を競ひ研究するの時、獨り彼は要塞なく砲隊なく、乃至工兵の設備なく、啻だ勇壯なる中古の武士道に甘んじたり。宗教の確執各宗派の猜忌嫉妬既に消滅したる十八世紀に於て彼等は惡むべき懶惰の日に定められたる教條を繰返し、ルウテル教徒及び希臘非國教徒に反抗し、ヴォオルテイルの同代者たる彼等は同盟を以て不俱戴天の仇敵と思惟したり。此大國民の災殃に關して此の如き呪の言を致すとも敢て矯激を以て求むべからざるなり。噫、吾人は是に至りて人類の教訓として世界に誡むべきものあるを發見す、波蘭が滅亡したるは一に彼が己の惡弊を矯めて己を救ふを欲せざりしに因すと。波蘭の敵は之を殄するに表裏反覆の奸計を用ゐ、暴逆無道を極めたり、彼は只その最期に際して壯烈悲壯の勇氣を示めし、之によりて僅かに不窮の名聲を遺したるのみ。

カザリン二世（一七六一―一七九六）一千七百七十一年の波蘭第一期分割

カザリン二世は其先日耳曼種にしてアンハルト・ツェルブストの王女なり、彼は其始めより此素姓を忘れしめんがために多く努むる處あり、而して臣下の習俗慣例を尊敬するが如く裝ふて露人の虚榮心を籠絡すると同時に、外國人を擧げて之を要路に立たしめ、且つその權力を拘束して己を僭ぐことを遏ぎたり。頴敏なる才略剛邁なる氣力に於て女皇の如きは其類稀なると共に其性行の放縱淫蕩にして乖倫敗德なる點又よく彼に比敵するもの尠し。げに彼得大帝の遺圖を完成し露國をして一等國に昇さしめたるもの一に女皇の力なり。

女皇は其始めビレンをクウルランド公に復し、次で波蘭王アウガスタス三世薨ずるや嬖臣スタンスラウス・ポニアトウスキイを以て波蘭王と成さんことを提起せり。勇敢なるモクラノウスキイを首領とする一團の志士は露兵の銃劍の下に之を商議せんことを肯んぜず、猛然として之に反抗を試みたるも、一千七百六十四年九月十一日ポニアトウスキイはスタニスラウス・アウガスタスの名によりて布告せられ波蘭王となりぬ。

上に統師すべき君主なく下に支ふべき人民を有せざる波蘭は恰かも臺座なく又首級なく、全身蟲に蝕されたる巨像に肖似せり、今之を濟はんもの一に勇猛なる

改革あるのみ。而かもかゝる革命を完功せしむることは露國と普國との共に看過し許容する處にあらず。果斷勇往なるフレデリク二世は普國とポメラニアとの間に介在する大領土を得んがために久しく波蘭分割の野心を包藏し、既に此に關してカザリンの意向を窺ひたる事有り。カザリンまた自ら之を獨占せんと欲したれば知らざる眞似を裝ふて之を避けたり。されど之を無政府の狀に措かんとの一點に於ては兩者互に一致す、是に於て彼等はポニアトウスキイを選立する前波蘭立國の基礎を危ふする同盟條約を訂結せり。

波蘭を壓迫して危險の地に頻せしむるは敢て固き事にあらず、非國教徒事件は之が恰好の口實を供す。則ちカザリンは自ら非國教徒の保護を宣言し、波蘭議會をして彼等を迫害するために制定したる條例を廢止せしめたり。之に於て僧正等は抗議を提す、露國大使はその二人を捕へて西比利亞に流せり。羅馬法皇は激怒し、ヴォルテイルは稱賛し、フレデリック二世は時節到來を待てり、而かも彼は久しく待つを要せざりし。舊教徒は一千七百六十八年三月一日バアの同盟を組成し其旗幟として聖母及幼耶蘇の繪を掲げたり。羅典十字軍は希臘十字軍に向て進軍し、農夫は其地主を逆弑し波蘭は全く腥風流血の天地と化し去りぬ。一日千秋の思をしたる普國は西部に、墺軍はジップス領に侵入し、而して露兵は到る處に散在せり。

此時西部歐羅巴の體度を窺ふに、英國は已に亞米利加植民地に表はれたる不穩の影向に憂心して大陸の事件には離隔するの策を取り、佛國は宰相ショワズウル、波蘭を救ふの手段を探求せるも、一も之を發見する能はず、その後繼者デギイヨン公は全く之を放棄して顧みず、獨り土耳古は佛國大使ドヴァルジインに勸誘せられて立ち、ザポロジアのコサク兵が(一千七百六十八年)バアの黨類を土領に追及したる事實によりて領土侵害を否として露國に開戰を布告したり。されどカザリンの兵は到處に利を得、一千七百六十八年にコッツム及アゾフに、一千七百七十年にイスマイルの附近なるベンテルに勝を占め、モルダヴィア及びワアラキアを占領し、同時にその海軍は英國士官の指揮の下にスミルナの西南チェシュメ灣に土耳古艦隊を燒燼したり。全歐は之を見て拍手喝采し、曰く、蕃族歐羅巴より驅逐せざるべからずと、而して露人が今此任を負ふたるを見て喜びぬ。但しモンチスキュ一人は之が

正皓を判じて謂く、土耳古は全歐の詮衡を保つに不可缺一勢力なりと。扨てアウストリアはカザリン二世が下ダニュウヴ河に進出するを見て憂心を起し、土廷と秘密條約を締結し、又フレデリックも露軍の優勢に驚駭し、私かに普墺同盟を以てカザリンを威嚇し、彼をして專ら波蘭の事にのみ拘制せしめんと欲し、其弟ヘンリイを聖彼得斯堡に派してその交渉を開かしめたり。

波蘭の横奪は激烈なる爭鬪ありて後完ふせられたり。憂國志士、プラウスキイ、シヨワズウル公の派したる佛將デュウムウリエー・リスアニアの勇將オヂンスキイ等の猛勇を以てするも到底大兵に向つて如何ともする能はず、加ふるに土耳古が露國と休戰を約したるためにその聲援を失ひ、今は頽瀾を既倒に覆するの望全く絶えたり、されど勇壯なるシヨワシイは僅少の佛將卒を指揮してクラコオに頑强なる抵抗を試み、久しく之れを支えたり。波王スタニスラウフ・アウガスタスは宛も自己とその國家とに關せざるものゝ如く、萬事を放棄し己は遠くワルソオに留りて傍觀せり。かくて遂に露普墺の三國は布告して曰く、波蘭に兵を起すものは其何人に限らず之を匪賊若くは放火犯を以て遇すと、而して八月五日三國の使節は聖彼得斯堡に會して分割條欵を決議し、九月九日之を波蘭王及その共和黨に通牒せり。其意に謂く、女皇帝マリア・テレサ露國女皇帝カザリン二世及び普魯西王フレデリック二世は波蘭の流血を防ぎその平和を恢復するがために波蘭の數州に各自の權利を行使するを決したりと。かくて三國は共和國の新境域を協定せんかために議會の召集を要請し、一千七百七十三年四月十九日該議會ワルソオに開催せられ、條約は直ちに批准を了したり。即ち之によりて露國はドヰイナ河の東方に位す諸地方即ち波蘭のリヴォニア、マイシスロオの全采邑、ミンスク領の兩端、キッテブスク及ホロック領の一部を得、墺國はガリシア、ロドリアを割取し、併するにウキリクザ及サムバアの豐富なる製鹽業を以てし、普國はダンズイク及ソオンを除きたる普領波蘭を取り、之に加ふるに遠くネッに到る大波蘭を併せたり、普國は之によりて日耳曼諸邦と連絡し、又波蘭の適當の大部をその支配下に置くを得たり。而して波蘭はその殘滓を與へられたり。

此一大罪惡の完遂せられたる年即ち一千七百七十三年ピュウガッッセフと稱する一怪傑出現せり、彼は初め兵卒となり、次て脱走し、遂に山賊と化したるものにして

自ら刺客を遁れたるピイタア三世なりと稱してコサック兵中に身を投じぬ、聽て大兵を集め勢威甚だ侮るべからざるものとなり、莫斯科爲めに大に震駭せり、實にオーレンブルヒの攻擊に大公カリッチンに遏けらるゝ事なかりせば彼は一躍して莫斯科を蹂躙せんと圖りたるなり。されど彼は行く〳〵沿道を慓略し暴戾を盡したるため人心を失ひ、その黨與漸次減少し、遂に十萬留のため部下に裏切され捕へられて鐵檻を以て莫斯科に護送され、同類五人と共に刎首せられたり(一千七百七十五年)。

カイナルヂ條約(一千七百七十四年)及び**ジェッシイ和約**(一千七百九十一年)　露土戰爭は一千七百七十二年一時休止したるも、翌七十三年又再び開始せり。戰は其初に於て土軍に利有り、再度シリストリアの圍を解かしめたるも遂に露軍の陷る處となる。露將ロマンゾフはシリストリアの南四十二哩、ブルガリアのカイナルヂに土國の大宰相を擊破し、一千七百七十四年七月十日遂に土國をしてカイナルヂ條約を容るゝの止むなきに到らしめ、以て東歐の利權を悉く露に委ねしむ。則ち之に由りて土耳古にクリミア及びクウバンの韃靼人の獨立を承認し、(されどこは後間もなくして露國の配下に屬したり)、黑海の自由航行を許るし、ニイバア河口のキンバルン、エニケエル、カアチ、アゾフ及タガンロッグの諸地方に併せてニイバア及ボッグ兩河の間に在る崎を割讓せり。之と同時に償金四百五十萬留を賠償することを約し、露軍に援助したる希臘人を特赦し、モルドヴアラキアに露國の保護權を承認したり。而して條約は當戰爭の原因となり又機會を享したる波蘭に對しては何物を約することなく全く之を度外に措きたり。所詮此看過默々は一千六百七十二年の大逆惡の是認ともいはゞいふべし。

翌一千七百七十五年露后は刼掠を以て業とし、半獨立國の體度を保ちたるザポロジアのコサックを征服し、依て以て黑海の北部に於ける露國の權勢を益鞏固ならしめたり。

波蘭分割は又益之と同一の强奪的慾望を催進したり。即ち一千七百七十七年墺國バヴァリアを獲んと欲し露之に抗す、次て一千七百七十九年テッチン條約を結び、之によりて露は佛と提議して既得の權利を行使するに努め、依て亦日耳曼と親交を結び、自己の密計を容易に完行せんがため、後二年にして日耳曼の最小國に到る

まて其公使を派せしめたり。此の如くして露は曩に墺に禁じたるものを更に幾層倍にして己に收めたり。當時土耳古は殆ど衰頽の極に達したり、而も尙ほ波蘭と運命を同ふせざりしものは何んぞや。一千七百七十七年の初つかたカザリンはカイナルヂ條約を無視して兵をクリミアの附近に入れ、此地の酋長に年金を與ふと欺りて其主權を買收し、一千七百八十三年全く之を取り、一千七百八十六年露將ポテムキンはセバストポオルの建設を此地に起しぬ。更に又クウバンを取りジェオルジア王ヘラクリスをして其保護權を承認せしめ、而して露の勢力は將に高加索を踰えんとす。カザリンは其雄圖を此に止めず、愈之を進め、其第二皇孫に命名してコンスタンチンと稱し、且つ之が半身像を彫したる功牌を鍛ち、その裏面に七塔を有する君士坦丁堡市が雷霆の爲めに分碎せられし狀を刻し、其前途を織せしむ。次て一千七百八十七年ジゼフ二世と土耳古分割を默契し、トォリスに凱旋啓行を試み、カァフンに建てたる凱旋門に希臘銘を雕刻して暗に雄略の意志をほのめかしたり。時の英國公使は最も直截なる義譯を試みて曰く、「ビザンチンに到るの道」と。此の譯は功妙ならずと雖も蓋し眞實を洞察したるなり。げにカザリンは此時已に其皇孫ニコラス帝が一千八百五十三年英使サア・ミルトン・セイモオルと致したる密約を佛使ドセギュウルと試みたるなり。女皇の曰く、土耳古人を亞細亞に驅逐するよりも易き業はあらず、此事完遂の曉には佛は其分としてクリイトと埃及とを獲得すべし」と。

一千七百八十七年土廷は此の挑戰的行爲に對して憤激し倏ちに開戰を布告せり。されど土國は墺露兩軍の攻擊を受け僅かに瑞典王ガスタヴスの勢援を得たるも軍容振はず、加ふるに瑞典は芬蘭に侵攻を試みたる際一方自國の貴族の離叛するあり、一方丁抹に脅かされ猛威を振ふ能はず、遂に一千七百九十年ヴァレタの平和條約を結びぬ。但し是に至るの始め土軍甚だ勇敢に侵畧軍に抵抗し、墺軍をサエヴ河外に驅逐し、ジゼフ二世をテメスヴァルに敗り、露の海軍をセバストポオルの前海に擊破し勢當るべからざりしも(時は一千七百八十八年)間もなく敵軍その勢を恢復してコッツム及びオチャコヲを占領し、次年露軍フォックスシャニイに連勝し、墺軍又ベルグレードを降し、將ポテムキンはベンダアを占め、スワロフは暴逆なる屠殺をなしてイスマイルを取り、土軍の勢大に蹙まり危機一刻に迫れり、時幸に

も普國の疑惑を起し之と同盟を結び、次に和蘭英國亦之に加盟し、遂に普將ライケンバクの干渉起り、一千七百九十年に殂したるジョゼフ二世の後繼王レオポルドをして土廷とシストヴの和約を容れしむるの止なきに到りしめぬ(時に一千七百九十一年)。土廷は此和約によりて只だ僅かに上ウンナ河の左岸にあるクロアチアの一部と大ルソヴァとを保留するを得たり。之と時と全ふして八萬の普軍は露國々境に動員す、此大示威行動を見たるカザリン二世は大に惧れ、忽ちガラッツの豫備和約を容る(時は一千七百九十一年)次てジェッレイの本條約によりてニイスタア河を兩國の國境と定め、露國はオチャコフの要塞クリミヤ及ひクウバン(一七九二年)を保有したり。露は此役十五万の大兵を失ひたりといふ、蓋しこはカザリンの愼重なる用意を缺きたる結果に出づ。

一千九百九十三年及び同九十五年の第二、第三回波蘭分割

波蘭は土耳古の代償を成せり。第一回分割によりて國民の惰眠を覺醒せられたる波蘭は今之を濟ふには只だ一方法ある事を悟れり、則ちその無政府組織を變革することを。時にフレデリック二世の嗣王はいたく露國を惶れて波蘭の革命を奬勵し、もし彼にして六萬の精兵を擧ぐるを得ば之を援けて露に當らんことを約しぬ。而して波蘭議會は自由投票制と滿場一致の制定との廢止を宣告し、其立法權を王、元老院及びナンチオスに分ち、行政權を悉く世襲王に賦托することを議決し、一千七百九十一年革命は最も猛烈に國民の間に擧行せられたり。蓋し此等改革條例を制定し發布するに逡巡時を空費したるため、愈〻事を擧ぐるの時は其機を逸し、普國の意向は此時全く變交せられたるなり。即ち普國は佛國の事に關して墺國との同盟を復興し、之と共同して巴理の革命を討治せんと志したれば、今亦ワルソオに手を出すの餘裕を見ず、かくて波蘭は單獨にコスチュウスコオを將として八千の兵を率ゐしめ二萬の露兵と會せしむ。されど直ちに大敗し、波蘭の憂士はジャコビン黨なりとの口實の下に分割を新にせられたり。一千七百九十三年七月十三日と九月廿五日の兩度の條約によりて露國はリスアニアの半部ボドリア、ポロック、及びミンスクの殘部キルナ領の一部、ノヴォグロデック、ブゼスク及ヴォルヒニア等各采領の半部を取り、普國は大波蘭と久く垂涎したるソォルン、ダンヂック及び小波蘭のチェンストオコフとを併有し、其餘の殘地を一千七百七十六年の時と同じ

く波蘭に保有せしめたり。

此暴戾なる所置は再び敵慨心を喚起し、コスチュウスコオは此第二次分割に加入せしめられざりし墺國の勢援に依賴し、四千の波蘭人を引率して一万二千の露兵とラスラキスに會して之を敗走せしめ、ワルソオに露の守備隊を驅逐し、一千七百九十四年叛旗は諸所に飜りぬ。されど彼等は軍資物資に缺乏し、内部の破綻のため混亂を來たし、加ふるに普露同盟中に墺國の加入するに及び、全く死命を制せられぬ。ユスチュウスコオは十月十日マシイジョオキスにスウワロオに擊攘せられ重傷を負ひ、波蘭の最期と絶叫して倒れ、遂に其友詩人ニイムツェキッチと共に囚はれ露國に護送され、かくてカザリンの薨ずるに及ぶまで此地に俘虜となりぬ。スウワロオは一舉ワルソオに入り、曩のイスマイルと呼應するプラガの大逆殺を行ふて之を略せり。波王ポニアトウスキイは廿万デュカットの年金を受くるの條件にて棄權し、其後間もなく一千七百九十七年二月十一日聖彼得斯堡に殂す。かくて波蘭分割の領域は三國の間に確定せり、即ち墺國はクラコオ領の大半、サンドミル及ラブリン領の全分を領し、以て遠くボック河の上流に到る、普國はニイメシ河よりグロドノ及びボック河に至る諸地方とビアリストック及びプロツクとを併有し、露國は其殘分を領したり(一千七百九十五年)。此の如くして國際公法の曲惡なる破棄は完功し、ソビイスキイの國は歐洲地圖より消滅するに到りぬ。げに彼等は既に今行ふたると將來に例を遺して之を是認せしめたるとの二重の點に於て逆惡無道の大罪を犯したり。後年同盟の大亂に踵して起りたる各條約に於て當時の征服者の都合に任せて人民と國家とを恰かも羊群或は田畠の如く之を四分五裂に分割したるは、畢竟此回の横奪を犯したる無道者の遺したる範例を適用したるものに外ならず。

カザリン大女皇は翌一千七百九十六年十二月九日卒中に罹りて薨去せり。女皇は惡に於て絶倫なりしが如く、又善に關しても絶大の偉女夫たるを失はず。女皇はバルラス、フマルコ及びビルリンクス等の企圖したる科學的發明或は發見討索の航海を奬勵し、又泰西文明を愛して當代の文豪碩儒と親交を結び、ヴォルテイル及び百科事彙者と通信を往復し、ダラムベル及びデデロオを聘して宮中に住せしめ、女皇自らマルモンテルの「ベルゼイル」を飜譯し、孜々として文藝の趣味の賞翫に努

め、或は諸州より代表者を召集して憲法の起草を命じ、モンテスキュウの所說に關して奴隷廢止の問題を論爭討議せしめたり、但し之がために未だ一人の解放せられたる奴隷あらざりき。モンテスキュウの言に謂く「奴隷を使役する主人をは不知不識の間に有ゆる道義の念を失はしめ、傲慢、性急、刻薄、殘忍、乃至淫蕩とならしむ」と。女皇は又好んで外國人を招聘したるも自國人の外國に歷遊するを慊べり。莫斯科市長或時學校の常に寂莫空虛なるを嘆したるに、女皇之に答て曰く「卿憂ふる勿れ露人は敎育を欲せず、朕か學校を設くるは我等のためにあらず、全く歐羅巴のためなり、蓋し我等は彼地の輿論の如何を常に注目するの必要あればなり、我等が庶民にして文化を得んと志すの日は應て我等の地位を失ふの時なり」と。

瑞典亦波蘭と同じ運命に會したりといふも可なるべし、何となれば彼は一方佛國黨即ちハット族、及露國黨即ちキャップ族の兩黨によりて分割せられ他方ワルソオに於けると同じくストックホルムの君主は何等の實權を有せざればなり。一千七百四十一年ハット族はナイスタット條約を破棄せんがために露國に向て開戰を布告したり、されど戰利あらず、若し仲解の勞を取りたる英國の援助なかりせば芬蘭を喪失したるや疑なし、幸に之ありしがため一千七百四十三年アボオの和約によりても只だ二三州を失ひたるのみにて事落著せり。爾來露國の勢力は瑞典を壓服し、金錢と甘言とは兩族の分離を維持し、以て國家改善の擧を妨止せり。瑞王アドルフス・フレデリック(一七五一―七一)は恒に國家の革命を念じたるも(後其子ガスタヴス三世に至りて完功せらる)比隣の二强國に脅かされて之を擧ぐるを得ず、吾人は前に一千七百六十四年の條約が波蘭分離の第一着歩を成したる事を說けり、之と相似たる密約即ち瑞典の立國所謂無政府政體を持續せしむるの密約此の時既に露普の間に締結せられたり、こは後年一千八百四十七年に及びて初めて世に知られたり。されどガスタヴス三世の果斷よくこの實現を妨げぬ、彼が一千七百七十二年八月十九日に決行したる武斷政略は正しく成効を遂げ、一千七百八十九年發布の憲法によりて完成せり。是に於て從來露國の勢力を普からしめたる貴族團も餘義なく之より必然に來たる特權を王に賦與したり。一千七百八十八年ガスタヴス三世露國に宣戰し、千七百九十年にはスウェンスカ・ザウンドの海戰に露艦隊を擊破し、前途大に矚すべきものありしも其後二年にして部下の士官に參せる

貴族のために暗殺され、又瑞典は再び常暗と化しぬ(時に一千七百九十二年三月十六日)。次て狂王の稱あるカスタヴス四世出て、又之に亞ぐに暗弱の王チャアルス十三あり、最後にマアシャルベルナドット選出せるゝに及び、彼、佛あるを忘失して自ら露國に投じ、遂に瑞典をしてザアの一臣屬に下し、其後クリミアの戰爭あるに到り漸く之を脱することを得たり。

第七編　佛蘭西革命の序幕

第二十九章　十八世紀の科學及び文學

科學界及び地理學上の新發見　十六世紀は藝術の時代なり、十七世紀は文學の時代なり、而して十八世紀は科學の時代なり、殊に長足の進歩を成し、殆んと斯學の一新生面を創開したるの時代とも謂つべし。物理學はフランクリン及びヴォルタの兩天才によりて、數學はラグランジュ及びラプラスによりて、植物學はリンニアス及びジュシユウによりて、動物學はブッフォンによりて各、刷新改善を來たし、而してブッフォンは又地質學上不朽の功績を貽し、ラヴワジエは化學に鞏固なる基礎を供したり。之れと同時に博學多識なる航海者は十五世紀の發見討索の事業を繼承し、此地球を探査して殆ど完成の域に達せしめたり。

前世紀の偉人デカアト、パスカル、ニュウトン及びライブニッツ等は數學として著しき進歩を到さしめ科學の一新分科を創開したるも其應用實施は之を後代の天才

に俟てり、ユウレル、クレイロオ、ダランバル、就中ラグランジ及びラプラス等は此任を負ふて出現したる十八世紀の碩學なり。ラグランジの穎才は十九にしてユウレルの提起したる難問を解決し、次年其名を無窮に傳ふる一大論文「變化の方法」の著あり、彼の秀拔なる頭腦によりて產出したる新發見を例記せんには餘りに餘白に乏しきを遺憾とす、請ふ吾人をして彼の無數の功績に對し下の數語を以て其頌德の辭に代ゆることを恕せ、彼は純正解析を完全の域に到し、ニュウトンとライプニッツとの間に發見の爭論を起したる微分積分學を更に開展進歩せしめ、乃至幽玄深奥なる學理を說明するに爾かく典雅と明晰とを兼有したるもの彼の如きは稀なりと。彼は佛人を兩親としてチュウランに生れ、一千八百十三年巴里に卒す。那勃翁は之を推薦して元老院議官に擧げたり。ラプラス（一七四九―一八二七）は下ノルマンディのオーズの谷に生れ、貧賤なる一農夫の子なり、ダロムベルの編輯に從事するがために巴理に來り、此の地に永住せり。彼は其名著「メカニック・セレスト」に於て宇宙を支配する天文學上の諸法則を論究し、以て先哲の遺したる事業を完功したり、されば數學的天文學は寧ろニュウトン、ケプレルよりも彼に負ふ所最も多しといふべし。其の著「世界體系の說明」は簡淨典雅の文範と稱せられ、「蓋然說（プロベビリティ）の說明」は後來著はれたる同種の著書に重要なる原理を供し、此學の證權と目せらる。ラプラスは那勃翁及びルイ十八世の尊敬を受け、一千七百九十九年總政官の沒落後六周間內務大臣の職に就き、帝國の下に元老議官となり又伯爵に榮進し、王政復古の後侯爵に陞敘せられ光榮ある晚年を送りぬ。其著は一千八百四十四年國費を以て再版に附せられたり。

ラランド（一七三二―一八〇七）は前者の如く著大なる功績なしと雖も四十年間恰も一日の如く佛國大學に敎鞭を取り、天文學の研究を奬めたるの功又沒すべからず。バアゼルのユウレル（一七〇七―一七八三）は微分積分學を完成し解析の運用を甚だ簡易ならしめたる碩儒にして、普王の皇甥アンハルト・デッソオ親王に贈りたる佛文の書翰は亦甚だ有名なるものにして、此書は物理學、純正哲學及論理學に關する彼の意見を敍したるものなり。幾何學及天文學の巨擘クレイロオ（一七一四―一七六五）は僅かに十五にして科學翰林院に興味ある論文を提出し、十八歲にして同會員に推擧せらる。彼は一千七百三十六年にラプランドに旅し、曩にブウジェー、ラ・コンダミンの赤道に試み

たる子午線の角度を北極に討査せり。其後間もなくしてラカイユは希望峰に航して之を南方に試み、南部天象の精圖を引けり。上に屢記したるダロムベル（一七三一―八）は廿二にして博覽の譽を得たり。彼は大幾何學者として、はた達文なる文士として令名を博したるのみならず、亦佛國科學翰林院長に甘じて各國王の禮を盡したる招聘を辭じ、孜々として學事に盡瘁したるの大德は世の賞贊畏敬して措かざる處なり。夥多ある著書中著名なるは「力學」「流動體の研究」「風力に對する反動」、「世界體系上各差點の考覈」、乃至「百科事彙の序論」等なり。ベエリイ（一七三六―九三）は其著「天文學史」を以て有名なれど更に佛國革命中に於ける彼の行動は最も人口に親炙せり。モンギュは（一七四六―一八一八）畫法幾何學を創し、英人ブラッドレエ（一六二九―一七六二）は行光差及び地軸の振動を發見せり。ウイリアム・ハアセル（一七三八―一八二二）は初め巧みならざる風琴手なりしが、不撓不屈なる强健の意志に因りて一大天文學者となり、家貧にして購ふ能はざる諸種の天文學上の器械器具を自ら製作完成せり、彼の發見にかゝるものに天王星、土星の二衛星及びハアキュルズの星座に對する太陽系の運行等あり、亦星雲の研究によりて天文學上星學を開拓せり。

ベイコンが創刱したる實驗的物理學はデカアトによりて再び臆說の地に墜されたるも十八世記に至りて之を脫し、爾來頓に長足の進步を遂げたり。此學の進步に多大の寄與をいたしたるはフランクリン及びヴォルタの兩天才なり。此兩偉人は吾人が現に電氣と稱する神變不思議のものの變現極りなき効果を認めて研究をはじめ、其秘奧を討探して遂に其玄を開闡せり。フランクリンは一千七百六年ボストンに生れ、何者の扶助指導によらず全く獨力を以て自習したる稀有の英傑なり。彼か科學を研究し開拓するや決して自己の悞樂を買はんがためにあらず、又虛榮の仇なる心よりにあらず、其の深き切なる博愛の道念は彼を驅て同胞の安寧幸福を增進せしめんがために發に出でしめたるなり。かくて彼は自己の生命を賭して避雷の研究實驗に從事し、遂に雲中の電氣も、機械に用ゆるそれと同一なることを發見し、避雷針を案出して之を公私の堂屋に應用し、フィラデルヒヤの全市は直ちに之を以て蔽はるゝに到りぬ。彼は殊に科學を通俗に說明し、應用せしむるの枝能に秀でたり、その曆及び「フゥア・リチャアドの言」は合衆國のために從來行ふ能はざる空想と見做されたるを現に實行に上さしめたり。或人彼に問て曰く、「輕

氣球は何の用をか爲す」と、之に答て曰く、「嬰兒は將に何の要をかなす」と。

ヴルタは以太利ロムバルディのコモに生れ、若きより實驗の技能に秀拔なる儁才を顯はせり。物理學はその巧みたる器具の製作に付て彼に負ふ甚だ多し、例ば起電盤、收電盤及び檢電器等皆な彼の手に成るものなり。就中重要なる發見は「物體の接觸は電氣の起原なり」てふ一大原理なり。ボログナのガリバニイは一千七百九十一年に電氣の特殊なる現象を發見し之に自己の名を留めたるが、之より三年にしてヴォルタは電堆を發見工夫し、之を完成するに及び化學、通商、工業上に一大革新を齎らしたり。此大物理學者は那翁のために榮譽を受け、一千八百二十六年八十一の高齢を以て逝きぬ。

吾人は又レオミュウル（一六八三―一七五七）の大名を逸すべからず、彼は寒暖計を創意し所謂レオミュウル寒暖計を構造せり、彼は物理學者としてよりも博物學者として現に嘖々たる名聲を博せり、その著に虫類史に關するものあり。クウロン（一七三六―一八〇六）は抗扭衡を發明し、之を以て電氣磁の引力拒力の法則を發見せり。ズウフロア侯は蒸氣艇を發明し一千七百八十三年ソーン河に其初航を試みたり、されど不幸にして當時未だ有要視せられざりき。モンゴルフィエは同年輕氣球の初航を試みたり。英國にてはステエルス（一六七七―一七六一）通風機を創意し、ワット（一七三六―一八一九）は凝汽機を發明して蒸氣機關を數理的正確となし、以て火力の三分の二を節約することを得せしめたり。之かため從來全く放棄せられたる蒸氣機は生産業の最有力なる一機械となりぬ。伊太利にてはフォンタナ（一七三〇―一八〇五）物理、化學に深大なる攻究を試み、人體の模型に彩色蠟を應用する事を發明したり。

十八世紀の化學は精巧なる方法を缺きたりと雖も着實なる進歩の稍〻見るべきものなきにしもあらず、數多の現象は觀察せられたるも之を普通の原理に統括する大智を有せざりき。獨逸の醫學者スタアル（一六六〇―一七三四）の燃素説は當時の最も聰慧なる智者をして惑はしたり。化學をして眞に一科學と成し得る者はラグワジェイなり。彼は一千七百七十五年化學上の説明を試みて曰く「物體の燃燒並び金屬の煆燒は共に其物質と酸素との化合の結果なり、而して熟の消散は酸素の狀態に一變化を來したるものに外ならず」と。一千七百八十四年水を分析して酸素と水素とより成ることを發見するに及び燃素説及四元素説は全く顚覆せり。此時

また化學上の術語は一定し居らざりき、之を說定したるものはモルヴォの功なりと雖もまたラヴワジエィ、バアトレエ、フウルクロア等與て力あり。彼等は一千七百八十七年の有名なる報告書に調印し、はじめて一定術語の完成を見たり、此際ラグランジュ謂て曰く、「今や化學研究は甚だ容易となれり、人は恰も代數を學ぶが如くに之を學ぶを得」と。バアトレエ（一七四七―一八二二）は鹽素の除色性及び炭素の水を淡清する性質ある事を發見し、フウルクロア（一七六五―一八〇九）は雷管の合藥を發見し、鑛泉の分析を完成せり。蘇格蘭の人ブラック（一七二八―一七九九）は炭酸の存在を探知したる元祖にして又潛熱を發見したり。カベンディッシュ（一七三一―一八一〇）は水素瓦斯の性質を分析し、水の要素の發見に付てラヴワジエィと其名譽を爭へり。プリイストリイ（一七三三―一八〇五）は酸素を遊離せしめたる祖にして、之によりてラヴワジエィに路を開きやりたり。ストラルサンドのシェーレ（一七四二―一八六）は鹽素其他化學上の諸元素の發見を成せり。

ラヴワジエィが化學を一獨立の科學と成したるが如くブッフォンは動物學をリンニアスは植物學を一科學に獨立せしめたり。ブッフォンは一千七百七年バルカンディのモンバアルに生れ、リンニアス同年に瑞典のリイスハルトに生る。前者は御料局長に任ぜられ殆ど五十年間を自然の研究に委ねたり、其著「博物學」は三十六卷の尨大なる著書にして一千七百四十九年より同八十八年に至る間年々絶ゆることなく出版されたるものなり、而して其文體の崇嚴にして挿圖の美麗なること一般の賞贊を博せり。但し其著「自然界の各世期」に於ては餘りに奔放なる臆說を弄したりとの批難を被れり。されど彼は又地質學を建設したる一大榮譽を負へり。氏は之により地球の現狀を歷史的に進及し得る變遷の結果なりと論結し、以て後代のキュウビエー及びエリイ・ド・ボオモントの開路者となれり。植物學の一大改革者たるリンニアスは其初め製鞭師に年期奉公し、廿三に至るまで其天才を發揮することなはざりき。當時植物學の最も緊要を感じたるものは其分類の方法なりき。斯界の學者は未だ雷だ大キサ若くは外視によりて分することを知れるのみ。リンニアスの烱眼は植物生殖の隱秘を洞察し、性別の方法を提起せり。尤も此方法はジュッシュウガ自然的方法を開說したる以來今日又用ゐるものなしと雖も、其分類法が此學の大進步を招きたるの功や沒すべからず。其他其著「自然界の體系」「植物學」等に於て永久不滅のものを貽せり、就中其術語と圖解とは全く獨創にして精確

なるの點に於て恒久に傳ふべきものなり。ドーベントン(一七一六—一九九)及びギイノオ・ドモンドビイラール(一七二〇—一九九)は又たブァフォンと共に駢馳すべきものなり、吾人は前者の著「動物史」、後者の著「鳥類史」に負ふ處甚だ大なり。アダンソン(一七二七—一八〇六)は又植物學者として特記するの價値あり、氏セネガルに淹留すること五年、此間植物學を研究したるものゝ如し。

鑛物學はサクソン人ウェルネルの研究を土臺としてアッヘー、アウイ(一七四三—一八二二)之を建設し、ドロミュウ(一七五〇—一八〇一)之を發展せしめたり、氏はその觀察を行ふため歐洲の大半を徒歩して横斷せり。

醫學及び外科手術は下の諸大家によりて光彩を放てり。ボルドー(一七二二—一七六六)はボールハアヴを意見を異にし、各器官に一、特殊の感覺あることを主張せり。パアマンチエー(一七三七—一八一六)は甘藷を佛に輸入して其培養を奬勵し、一般の常食として多大の貢献を成せり。デソオ(一七四四—一八〇五)は外科的解剖學開設の一人にしてビシャーの師なり。ビイネルは癲狂に付て研究し、狂者は必ずしも危險なるものにあらざれど、必らず繫縛すべきものなることを說けり。アッベエ・ド・シヒイは養啞院を建て(一七七一—一七八八年)、ヴァレチン・アウイは養盲院を建て自然の過失を補ふたり。以太利の醫界に立てヴァルレスネリ(一六六一—一七三〇)昆虫學、人類生機學に關して許多の實驗を試み、又自然發生說に反對したる諸說甚だ珍重すべきものあり、スパルランザニイ(一七一九—九九)は血液循環、消化作用、及び顯微鏡虫に關する有益なる研究を以て有名なり。モルガンニイ(一六八二—一七七一)は解剖學の巨擘なり。英國の醫界にはジェンネル及びチェッセルドゥン(一六八八—一七五二)の大名あり、前者は一千七百七十五年種痘を發明し、後者は生來の盲人の白內障に手術を行ふたる鼻祖なり。

十八世紀の地理學的發見は近世期の初めに於けるものと全く其動機を異にせり。彼の根本主意は土地獲得の念若くば宗敎上の思想を基礎としたり。十八世紀の探討は啻だ單に科學的目的を主眼とせり。コロムバス新大陸を發見し、ガマ印度に航行し、マゼラン地球を周航し十七世紀に於て和蘭人はニュウジイランドに上陸し(一六〇六)、ヴァン・ディメンス・ランドに上陸したり(一六四二)、而して日耳曼人ケムフフェルは日本を訪へり(一六八三)、其後彼等に亞て其落穗を收集したる者なし。されど新大陸を發見するの希望殆ど絕へたりと雖も猶ほさる緯度を過ぐれは無住の陸地ありと

の思想現存せり。ダムピイル(一六七一—一七一一)、アンソン(一七四〇)バイロン(一七六五)、ウォリス及カアテレット(一七六六)及びキャプテン・クック等の企てたる世界周航は全く此思想の結果なり。就中最後の大航海者クックは一千七百五十九年の往時に於て聖ロオレンスの地圖を曳きたるを以てまづ其令聞を博したり。氏は第一回周航の際タヒチを訪ひニュウジイランドを一周し、濠洲沿岸を周航せり、此航は一千七百六十八年に起發し、一千七百七十一年に終る。此と前後して佛人ボオガンビイユはソサエチイ諸島、危險群島及びボオガンビイユ島を發見し彼と榮名を競へり、此航は一千七百六十六年に發し六十七年に終る。されどクックは一千七百七十九年太洋洲の土人のためにマゲルランと同じく暗殺せられたるぞ不幸なる。サンドヰッチ諸島のカラカコウア灣は彼の慘死によりて有名となりぬ。クック及びボオガンビイユの轍を踏みてラ・ペルウズは一千七百八十五年に、ドントルカストオは一千七百九十一年に、現在世界の第五部分を成す、諸群島の甚だ危險なる迷路を隈なく周航せり。實に今日太洋洲の歐洲諸海と殆ど同一に世人に熟知せらるゝに到りたるは全く此兩人の大功なり。蓋し此の如き數人數度の航海と地理學上に益したる處少なくして寧ろ地球に關する物理的知識、天文博物等の科學的知識に寄與したる處却て多大なりし。ラ・ペルウズは遂に其事業のために斃れ、其破船の遺物は一千八百二十七年ヴァンコロ島附近に發見せられたり。バッス及フワレダアスは一千七百九十八年タスマニアの周航を成し、ベエリングは一千七百二十八年自己の名を附したる海峽を發見し、佛人ケルゲランは一千七百十一年南海を航せり。

文學及び藝術　物理學者が新勢力を曝露し、航海者が新陸地を發見するに努めおるの時文士を亦斯界の新地を發見するに努めたり。

今や文學は前世紀に於けるが如く只だ專ら技巧の天地にのみ跼蹐するを肯んぜず、有ゆる方面に侵入し、總ての者を整正せんことを要求せり。佛國思想界の最も豪强なる一團體は直ちに公衆に肉迫して彼等の幸福を得しめんことを圖れり。人は美辭麗文を彫鐫するを欲せず、專ら尖鋭なる警句を愈鋭利ならしめんことを努め、嘲笑の種子を拾はんがために社會の奇異を描かず全く社會其物を改選せんことを主眼とせり。かくて文學は甚だ執拗頑强にして又巧みなる武器と變じ、人は各之を揮はんことを欲し、一度之を揮ふや觸るる處恐るべき致命傷を負はざる

ものなし。文人にして政治界に侵入し、最も冷遇苦楚を嘗めたるものは最も多く世人の稱賛を博したり。こは甚だ矛盾の言説に似たれど蓋し事實なるを如何せん。輕浮、淫恣、利己的なる十八世紀はその敗惡の天地に尊敬すべきものを知力に保有したり。客室の爾かく活氣あり、禮讓の爾かく丁重なる、對談の爾かく光彩を放てる未だ十八世紀の如きはあらず。當代の才人は殆ど名門華冑より出づ、而し貴族はフォンテノアを呼應する武士的任俠を以て市民の子等か彼等に向て放てる熾ゆるが如き論爭の火箭を微笑を以て忍べり。マルザルブは曰く「當時向上の熱誠はあらゆる人心を燃せり」と。

該活動の巨擘としてヴォルテイル・モンテスキュウ、ルウソオの三英傑あり。ヴォルテイルは實名をアルウエと呼び、一千六百九十四年巴里に生る。其の父は元とポアトオより來れる舊公證人なりき。彼か大王の盛時を見ず只だその殘年の悲慘を目擊したるのみ、されは王が晩年の宗教上の慣例に反對して曝發したる反動に與みして最も熱心なる一人なりしこと又所以あるかな。彼廿一歳の時ルイ十四世に對して諷刺詩をものしたりとの廉を以て、バスチイルの獄に投ぜられぬ。こは彼の作にあらず全く寃罪なり、されど之に依りて知るが如く彼は既に己の機智に富み且つ害心ありとの評判に對して課金を徴されたるなり。彼愈〻一千七百十八年にものしたる脅嚇文句に富む「エディプス」及一千七百二十三年信教の自由を擁護するためにものしたる「ヘンリエード」の悲劇によりて其生涯を始むるや俄に評判を博し其作は到る處に歡迎せられたり。既にして彼は大貴族の仲間に紹介せられ、彼が輕快精緻なる性情は彼等の意に適し暫く之と往來しけるに、一日之がために禍を招けり。或日シュヴァリエー、ドロアン・シャボオ無禮なる暴言を放て辱かしむるや、下るを欲せざる彼何條之を假借すべき、倏ちに功妙なる譏矢を射て之に報けるにシュヴァリエーは卑怯にも其從臣の手を籍りてこの怨を報ふたり、臣僕を有せざるヴォルテイルは之に對して賠償を要求せり。然るに此貴族は更に陋劣の手段を弄して時の大臣を說き、貴族を怒らしたる推參なる平民は爲めにバスチイルの獄に檻禁さる。されど間もなく釋放され亡命の客となりて英國に渡り暫時瞑想の暇を得たり。居ること三年、ロック、ニュウトン、シェクスピイア等の思想を土產として歸るや、政治の自由より實に幾層激烈なる思想の自由、信仰の自由を渴仰するに到りぬ。

かくて直ちに「ブルウタス」及び「シイザアの最期」を作りて英國の大悲劇家の俤を佛劇壇に忍ばしめ、同時に「書翰」を公にして自己の天文哲學に關する思想を世に布きぬ。但し此書は迫害を受け刑吏によりて焚棄せられたり。

ヴォルテイルは其後その二大傑作「ゼイル」及び「タンクレード」を著して教會を攻擊し其言辭最も矯激を極めたり。蓋し彼は只だ行動所作を制傳する官權の改造に對しては餘りに多を置かず專ら言論思想を拘束する靈界の權威の廓清を熱望し殆ど之に其全力を傾倒したり。此思想界の戰鬪に於て彼は外國の君主と訂盟し其保護を請へり、即ち露皇カザリン及び日耳曼の諸侯伯と文書の往來をなし、就中普王フレデリック二世の宮廷に寄寓し、最も親善なりしが後遂に之と爭ひ反目するに及び、佛の國境に居をらしぬ、蓋しこは愈〻身の危險を感ずるの際之よりゼネヴァ附近のファルニイに走らんとの用意に出づ。此地に在て短歌、書翰、悲劇、小說、其他歷史、科學、哲學上の諸著作を爲し、此等は倏忽の內に四方に傳播し、日ならずして歐洲全土に周匝せり。

世紀の進むに從ふて彼の思想は益〻眞面目となり、峻銳となり、社會の弊風は愈〻彼が不俱戴天の仇敵となり、正義を愛慕するの念は炎々としてその情火を燃やしぬ。一方誤謬の裁判不當の判決の下に呻吟する不幸の犧牲の辯護し援助するに努めると同時に法制、法理、行政上の缺陷過誤を攻擊し、排棄して殆ど餘す處なかりし。此の如くして要請したる有ゆる革新は身後に至りて完遂せられ其後殆ど五十年間歐洲の思想界を支配したるなり。之を要するに彼は一面世の文明進歩を欲せざる者の怨を買ひ、他面社會は間斷なく物心兩界の改善進歩に向て精進すべきものなりとの思想を有する人々によりて敬慕せられたり。

モンテスキュウ（一六八九―一七五五）は靜平嚴肅の人にして不朽の名著「萬法精理」は二十年間の心魂を披瀝したものなり。其間に作する「波斯書翰」（一七二一）は深奧勁健なる諷譏なり。ヴォルテイル曰く「人類は其名稱を事實に喪失しけるにモンテスキュウは再び之を發見したり」と。氏は專ら民法行政法の詮諦を研覈し政治の本質を明にするを努めたり。されば敢て何物をも攻擊せず從て何等の異變も彼を殃するものなかりしと雖も彼も志す處や英國の自由を佛國に布かんとするに在りたる事明かなり。一千七百廿九年英國を訪ふたる時記して曰く「倫敦は自由と平等なり」と。

併し英國に關する觀察は半ば誤解なり。要するに一千七百八十九年に先だつ六十年前に於て既に革命の標徽を指示せるなり。

ルウソオ(一七一二―七八)はゼノバの一時計師の子にしてその前生涯は操行無懶にして全く過誤と不幸と、矛盾とに蔽はれ、中年にして初めて筆を執れり。初著「文藝論」は彼三十歳の著なり。こは文明に對する一種の宣戰にして、他の著「人類間差別の起源」は全社會組織に關する宣戰の布公といふべきものなり。「民約論」は氏の架空になる教育論なり、「社會契約論」は氏獨特の雄辯を以て國民的主權及普通的撰擧權との原理を論述せるものにして大眞理と大誤謬とに充つ。

舊と新とを併有する十八世紀は多くの常套主義(コンベンショナル)を有したり、げに人心を以て快樂の情緒と解し自然を目して樂劇閨房の裝飾、はたエルサイユの水松と觀じたり。ルウソオはかゝる裝飾淫蕩の社會に在て自然に還元せよとの野の聲を絶叫したるなり、その矯激の言焉ぞ震搖せしめずして措かんや、社會はその「ヌウベル・エロアズ」を見るに及び眞實の自然と裸かなる情緒とを知り得たり。十九世紀の由りて生息する詩歌は實に彼の創作せるものなり。

單に政治の面より此等三傑人の感化を窺ふに吾人は革命の三大期に其勢力の活躍せるを見る。即ヴォルテイルは一千七百八十九年の革命熱傳播となりモンテスキュウは國民議會の憲法起草委員の努力となり、ルウソオは國民議會の狂暴なる夢想家の思想を動かせり。

此英傑に亜ぐ者は明淨透徹なる智見を有する絶倫の書家ブッフォンなり、

此等大將の下に多數の勢子有り、精悍なるヂデロオ、大幾何學者として哲學者の一隊を組織したるダラムベルはその勇兵なり。彼等は百科事彙を編纂し其初卷を一千七百五十一年に出せり。こは人類の智識修養を新式に調練したるものにして屢、社會組織中宗教を脅かしたり。其他エルヴェシュ・ウスは「心」を以て、ドルバック男は「自然の體系」を以て、ラメトリイは「人間の機關」に於て、レーナルは「兩印度の哲學史」に於て各之を勢援せり。

此等と別途に出て之と駢馳せるものにルイ十五世の法典を編成せる大法官ダゲーソオあり、倫理學者ヴォヴナルギュあり、氏の名句に曰く「大思索家は心より生ず」と。大解析家コンヂャック、其弟マブリあり、最後にコンドルス侯又有名なり、氏は後ギロ

ンド黨のために刑せられ、その死を待つの間「人心進歩の概論」を述したり、氏の意に謂く人類は神の示したる通路を日々益〻強く、幸福に、自由に前進して毫も倦退を覺えざる旅客なりと。

此の如く哲學者は諸方に渉りて之を襲ふたるに經濟學者は只だ物質的の利益に觸れんことを求めたり。十七世紀に於ては一般に國民は廉く買ふて高く賣るが故に富有なりと信じたり。ケーネエは論ずらく貴金屬は富者の徽章なれど、貴金屬其物は富にあらず、眞實の富は農業にありと。グウルネエは之を工業に有りと做せり、久しく佛國に住したりし蘇格蘭の經濟家アダム・スミスは更に之を廣義に解して、勞働に有りと做し、而して勞働はその適用に於て農工商の三樣に分かると。彼が門弟は之に藝術、文學、科學等を包括する知的勞働を加へて四種とせり。

既にして人智は久しく形而上學の瞑想に拘束せられ、或は詩神の尊崇に渴仰し、專ら超世間の事に耽沈しけるに今や活世間にかゝる最も困難なる問題を解決せんことを求めんとす。哲學者經濟學者と等しく、總て其解決を自由の面に發見したり。ケーネエ派の有名なる格言に曰く「物をして獨り居らしめよ」と、此金句は一千七百五十七年及び同六十四年の勅令に適用せられて穀商の自由を承認し、ツルゴオは其後又之の布告を新にせり。タルジャンフン侯は他面より同一事を說きて曰く「餘りに甚だしく制御する勿れ」と。

およそ十八世紀の文學は二面より視察せざるべからず、即一は眞摯にして他は輕浮なり。而して藝術は只だ後者を掴めり。彼等は專ら優美の面のみを探究したるが爲め線と型との美を全く忘失せり。されど此方面の製作にして巧妙なる者は慥かに之有り富豪の高樓は輕快妖艶の裝飾を以て絢爛の光彩を放てり、而かも一として高壯なる肖像の彫塑せられたる者なく崇大なる一畫の繪かれたるものなし。かくてヴルサイユ宮は纖弱なる妖美の荒む所となり、建築家は前代の崇高雄大なる樣式を擧ぐるを知らざる社會の嗜好に從ふて其設計を縮少したり。

一千七百七十二年物故したるアンジュ・ガブリエルはルウヴル宮の柱廊に感悟してラ・コンコルド宮の柱廊を建て、亦兵學校を經營せり。されど後者は美は美なりと雖も其規模少にしてシャムプ・ド・マアルの崇大と相對して一層其外觀を惡くしたり。其他彼の手に成るものにヴルサイユの劇場、コンピイニュウの城廓あり。彼と

同代のものにトリアノンの柱廊を建てたるロバアト・ド・ユット(一七三五)あり、パンセオンを建てたるスウフロオ(一七八一)あり、聖スルピイス宮門を建てたるサルヴァンドニイ(一七六六)あり、こは當時甚だ激賞せられたるものなれど同じく壯大の點を缺けり。最後にミンヘトの殿堂を建てたるアントアン有り。彫塑家は建築家に比して英才更に少なし、最も有名なるはジイ・クウスツウ(一七四五)あり、ピガアル(一七八五)あり、後者はヴォルテイルの肖像を彫み、ストラスブルヒのサックス將軍の廟を刻せり。ブウシャルドン(一七六二)は聖サルピイスに在る數肖像及びルウ・ド・グレネルの噴泉に其名什を遺せり。畫家中の大名はワットオ(一七二一)、カアル・ヴァンルウ(一七六〇)及びジェ・エルネー(一七八九)あり。內第二者は「アンチセスを携へたるイーニアス」の畫尤も稱賛を博し、最後のものは海洋畫を以て名あり。畫家ブウシェー(一七七〇)は當時佛のラファエルと激賞せられたるも遂に忘れられぬ。グルウズ(一七二六―一八〇五)は技巧を弄せず簡朴の點を以て無窮に其名聲を保つに足る。就中「田舍の花嫁」、「麻痺病者の老爺」、「賢母」、「犬を伴れたる小女」等は有ゆる時代を通じて傑作たるを失はず。ラモオ(一七六四)は音樂界に一革明を起したる達人なり。

第三十章　佛蘭西革命の企圖

思想と制度との衝突

由來人心を激動せしめたる活動中十八世紀の革命を以て絶大の壯觀となす、十六世紀にも之に類似する動搖を見たりと雖も之は只だ宗教思想の一局部に限られたる小變動に過ぎず。今は乃ち然らず、人は教條に信を措かず、亦ルウテル、カルヴァンの時の如く神寵、自由意志等の問題に關して毫も其思惟を回らさず、人は啻だ專ら權利と義務とを要求す。考査試驗の思想は知らず識らずルウテル、カルヴァンに繭茅し、次でデカアト、ヴォルテイルに養成せられ、强健となり、最後に科學と文學とに依りて一般に瀰漫し、遂に今に到りて其最後の鐵鎖を斷とんとはするなり。げにあらゆる題目を探査せんとする好奇心の今日の如く爾かく熾盛なること未だ嘗て莫し、踏襲の常道を逸脫せんと試みる豪膽今の如く甚だ險に富むこと未だ嘗て有らず。人は多年暴逆と無道との慰籍を警句詩歌の中に求めたり。マザリン曰く「彼等は歌ふ、蓋し彼等は之に因りて報ゐんと欲するなり」と。既にして歌は愈〻減じ、人心は益〻眞率となり、又恐るべきものとなりぬ。

王者の專横放恣なるを見貴族の名將勇士を出ざゝるを見、僧侶のボッスウエー又はフェネロンを輩出さざるを見るに及び人は其權利を疑ひ、往日尊敬を表したる其稱號實價を秤量せり。

近世に於ける王者の主要なる功績は封建制度を顚覆して領土の統一、支配の統括を企圖したるにあり。十二世紀に佛に始まりたる此革變は十七世紀に到りてリシェリュウ及ルイ十四世によりて完成せり。されど封建制の碎屑は未だ路上に堆積せり、かるが故に箇人間はた制度の間には到る處甚だしき不平等不均衡有り、常に混雜紛糺を惹起せり。請ふ吾人をして佛の狀態を描かしめよ。但し吾人は之に先きだって歐州中最も專制なる國家に於て其惡弊は最も甚大なることを記憶せんことを要す。

一、政治上の狀態

憲法は未だ不文なるを以て萬事習慣の上に止まり、輿論によりて規定さる、而かも其輿論たる一時として常住なることなく恒に變化して止むことなければ物又之に應じて停留せず。主權は學理上絶對なるものと見做されたるを事實は決して然らず。何となれば根本法規と見做されたる傳說、前例、其他强力なる無數の利害の關係は之を掣肘し反對したればなり。かゝれば個人の權利は確立すべくもなく甚だ曖昧、加ふるに政治の慣例は掟よりも更に缺陷多かりければ各〻の者みな互に其權利を侵害し、其領域を蠶食せんことを求め、物一としてその位置に安立することと能はざりき。故に大臣は必要の場合此兩者を破壞するがために恰かも國會が法律に對して成すが如く其判決權を其掌中に握れり。勅令は議會の協賛を經て初めて其効力ありと做されたるも「カンシル、オブ・ステート」は此形式を經ずして命令的の法令を發布せり。僧侶と貴族とは各〻自己の法術を有し、而して第三階即庶民は金を以て購ふたる公職を竭す。官吏に關しては王は人材登用の一大特權を有せざりき。

內閣に六大臣あり、一に大法官、即司法大臣、二に財政監督長官即大藏大臣、三に宮內大臣、四に陸軍大臣、五に海軍大臣、最後に外務大臣是なり。而して各大臣の權限は甚だ錯綜し、且つ其管轄區域を地理學的に區劃せり。かくて地方長官は陸軍大臣に屬せず却て郵便局其管下に屬せり、海軍大臣は通商大臣を兼ね、領事を馬耳塞

港商業會議所とは其配下に屬す、外務大臣は年金の事を掌り、グアイアヌ、ノルマンディ、シャンパヌ、及びバリイの諸州を管轄す、宮內大臣は宗教上の事務と、玉璽とを司どり、且つ其管轄地としてランギドック、巴里、プロバンス、ブリタニイ、及ナヴァールを有す。大藏大臣の權內に屬するものには橋梁、街道、病院、監獄、傳染病、陸上の商業及農業等とす。行政區劃はその行政廳の區々なるに應じて甚だ混雜せり。即ち各監督領三十四、財政區廿五、州四十、大僧正及僧正領百卅五、議會及樞密議會十七、大學廿二、而して此等は皆互にその領域を侵害せり。

人民の財囊を收領するために無用の役所を立つることを行政の一要義としたるは尤も嘆すべき限りなり。聖シモンの言に曰く「ポレチャルトランは八年間に羊皮紙及び蠟稅として一億五千萬法を收めたり」と。げにポンチャルトランは埋葬報告吏、巴里製麥酒甄味役、假髮監督役、等其他之に類する小吏瑣役を任命したるもの其數幾千なるを知らず。蓋しかゝる濫發の弊害は役員の數事務の必要以上に超過し、ために役員は交代に事務に就くてふ不都合を來たしたり、一例を擧ぐれば巴里鹽稅收入所の役吏は年々交代し、其書記は三年目毎に交迭するの規定とせり。

十三議會と四ケの地方議會とは主權者の資格を以て民事刑事に關して宣告を下すの權限を有し、三百有餘の「ベエリッフ」は豫審を成す、而して「ベエリッフ」は行政上の職を兼ね、但し治安判事を有せず、革命の際これを入る。議會の管轄區域は甚だ廣大にして他に之と敵するものなく、就中巴里議會は佛國五分の一を管轄せり。其他兵事、商事、宗教等各部の法衙あり、市會は只だ地方警察權を有するのみ、但しストラッスブルヒの議會は死刑宣告の權を有せり。宗教、裁判の判事は修身懲役を課するの權を有し、時としては其最高法官は權利を確立するために流刑に當る犯人を絞罪に所することを得。控訴院、會計檢査院、貨幣鑄造局は輸入稅、鑄造及び金銀に關する裁判を所理す。「グランド、カウンシル」、宮中議會、巴里大學法衙等亦特殊の權限を有す。蓋し當時の規定としてさる人はさる法衙にあらざれば訊問すべからざるものなりしを以てかくは諸種異類の裁判有りけるなり。

民法は不當不正の判決を下せること多し、刑法は猶一層甚だしく、判決に先きだちて拷問を課し、之がために手足を斷れ、或は無慘の最後を遂ぐるものすらあり、而かも殘忍酷薄の所刑に對して被告は辯護人を許されず、亦元より抗辯の餘地を與

へず、判事は其宣告に對して何等の理由を辨明せず。今其一例を擧げんに、一千七百六十六年シュヴァリエド・ラ・バアルと稱する十九歳の青年或日、アッブヴィルの橋上にて木製の十字架を破碎したりとの廉を以て捕はれ、豫審の手續に因らず直ちに焚刑を宣告され、舌、手を捥ぎ斫られ遂に生ながら火焔の中に投ぜられたり。此連累者にして同罪を宣告されしもの四名ありしも逃亡して辛く之を免れたり。訴訟は緩慢、且つ情實に纏綿して紛糾を極め、常に暗默の裡に所理せられ、一旦被告として告發せられたるものは事實冤罪なるものも容易に青天白日の身となること難く、無辜の囚徒の囹圄に呻吟し、又斬首せられ悲慘の最後を遂げたるの數を知らず、要するに其裁判は眞實正義を明かにせんことを求めず、只だ罪人を發見せんことをのみ專一としたり。其他一千七百七十年モンベエリイは全く無實の罪名を負ふてサン・アルトアに於て車劈の慘刑に處せられたり、此所刑後三年にして高等法院彼の無罪を宣告し、佛國全土又之を稱せり。かゝる事情の下に於てヴォルテイルの激烈なる抗辯駁議も何等の効を成さず、刑法の眞義を明かにしたるベッカリアの名著も何等の用を成さず、曰く判事を警告したる控訴院の布達も亦空文に歸しぬ。

國會は總ての改革を排斥して受理せず、一千七百八十五年議長デューバチイだに不當の宣告を受けたる三人を轢殺の慘刑より救ふに忍耐と勇氣とを盡さしめたり。此の時に於て若し判官にして公明正大尊德兼備の人を得ばかゝる不備なる法律に優さる事萬々なりしなり。げに當時最も良心に富む判事をして過誤失明に陷らしめ、無辜の被告をして恐懼戰慄せしめたるものは實に此法律なりしなり。當時知名の人の戲れに諧謔したる言に曰く「我若しノートル・ダムの塔を盗んだりとて告發せらるゝ事もあらば直ちに逋逃するを以て最も遠慮の謀なりと信ず」と。社會は一面此の如き曝戾なる法律の下に苦めらるゝと同時に他面メロヴァンヂャン朝より傳來したる中を他の遺俗殘習によりて亦大に惱まされたり。巴里の帝都に於てだも尙罪囚庇匿の權、寺院に保留せられたり。

貴族は今は既に徒黨を組まず、臨時委員會は往日の如く勝手に被告を救護することなしと雖も王は尙往々吟味せずして直ちに檻禁、逐放を命ず。審檢吟味は尙多くの餘地あるに拘らず、所謂正義の床なる「グランド・カウンシル」を以て畢りを告げ又訴ふるの處なし。

裁判所長と書記と、判事とは王室より其俸給を受けず、假令受くることあるも定給を支給されたる事なし、故に彼等は其俸給の定額を原被兩造より收歛す、而してかゝる不平等無秩序の社會に於ける常として特權と禁止令殊に曖昧なる規定とは毎次衝突を免れず、されば訴訟審檢は殆ど常に斷ゆることなく、かくて爭議者は時人の呼て「正義の劫奪」と稱する好餌となりぬ。實に原被兩造より年々に收領したる苛索現時の額價にして四千四百萬法の莫大なる額に道せり、ルイ十五世の一大臣の記する處によれば六千萬法以上なりしといふ。以て其不法横道を察すべし。巴里議會の管轄區域は市都より百五十哩の遠きに及べるものあり、是がためその緩徐なる裁判の審理を受せんと欲する人は餘義なく此遠隔の里程を旅して此地に來たらざるべからず、こは亦軈て正義に對する殃の一なり。

およそ信用は法律が一國主權の反覆恒なき放埒を創傳し、之れ以上有力なる國家に於てのみ發達する勢力なり、されば佛國には元より之を求むる事能はざるなり、げに其政府にあらずして寧ろ個人間に成立するの奇視を呈せりモリアン卿の言に曰く「人をして大臣と契約するは恰かも富闘を買ふの感を馴致せしめたり」と。

當時最も森嚴に宣誓されたる契約の破棄されたる事其數幾度なるやを知らず、ために國庫は擔保を提供して歳入の前借を成さゞるべからざる窮境に陷り、猶甚しきに至りては一般歳入の前借に對して斯る屈辱的條件を提供したる上二割の暴利を支拂はざるを得ざる事只だに一再ならざりき。此際佛の財政力は英のそれに比して殆ど五分の一に過ぎず、英政府は四分を以て容易に國債を召募する事を得たり。蓋し戰爭は只だに勇と知とを要するのみならず亦巨額の資金を用したれば佛がかゝる窮策をも猶忍ばざるを得ざりしは勢の然らしむる處又詮なきなり。

而して債券の支拂は期限消滅後十年、十二年乃至十五年の長きに亘りて延期せられ、前後償出したる債券は全く混交し、何れが何なるや判知すること難く、國家の財政は紊亂の極に達し、一人として否な國務大臣だに歳入歳出を正當に知れるものあらざりしなり。一千七百二十六年フルウリイは國庫の未拂殘金に對する權利をファマアス・セネラル(收稅受負人)委棄し彼等は之によりて一億法を得たり。革命の當夜ド・カロンヌ、ネッケル及び其他知名の士は國庫の不足額と公債の眞額とに

付て各意見を異にしたり。財政の紊亂は之に止まらず、フランシス一世の時より國庫と王室の私囊と混淆したるかたの該王は出納官め振出したる爲替は手形面の額を仕拂ふべきものなりとの外何等の樣式を用ゐずして出來る限り一般銀行より引出し、又ルイ十五世は一年間同方法によりて一億八千萬法を貸り出し、其大部は皆な自己の淫蕩の費に消費し或は嬖臣の手に落ちたり。かくて一千七百六十九年には支出は歳入に超過すること一億法に達し、殊に或歳入目の如きは十ヶ年の前借を消費し盡したるものありき。

收稅は殊に紊亂し、政府は其全收入を受くる事能はざりき。蓋し其理は間接稅を擧げて皆なレエニュウ・ファマア(收入稅徵集受負人組)と六十人のファマア・ゼネラルとに委棄したればなり。彼等は自ら稱して國家の柱石なりといふも其實之を支ふにあらずして全く之を顚覆せしめたる奸商なり。彼等は一方に於て國庫より暴利を貪ると同時に他方に於てはあらゆる手段を盡くして自己等の收入を膨脹せしめんことを努めたり。其貪婪を滿たしたる一二例を擧ぐれば、ルイ十五世のはじめたる「耶蘇降臨節の贈物」の全產額を二千三百万法を以て引受け、之によりて四千万法を得、或は六年間消費稅の徵集の委托を受け之によりて九千六百万法の巨利を占め得たり、されば彼等が驚くべき富を得たる又訝しむに足らず。其一人なるブウレは四千二百万法を酒色淫蕩に浪費し一代の豪奢を極めたり。但し彼等は豫じめ其利益の幾分を贈與することを廷臣と約したるがため全利潤を獨占することと能はざりき。げに當時の大貴族大貴婦人と稱するものにして此醜略を受けざるものなく、ルイ十五世も遂に其手を伸ばして此分配を受けたり。

而して此等收入稅徵集受負人は納稅者の理解し能はざる繁瑣錯綜せる法規を編成し、其共酷なる鹽稅の逋脫を試みたる一行爲に對し常に牢に繫がるゝもの一千七百人より一千八百人の間にありしといふ。大藏省又之に劣らず暴戾を極めたり、即ち收稅吏もし其擔當の收入を齎らざるときは該地の重立てる納稅者四人を拘留し(此等の人は事實國家に對し其責を負ふべきものにあらずと雖も)不足額を償ふ迄之を檻禁せり。之は羅馬法中の惡法を繼承せるものなり。

平時常備軍の數十七萬人、內步兵十三萬一千、騎兵三万一千、近衞八千なり、但し眞に有名なる軍隊としては十四万人を越さず。而して此は十二箇の瑞西聯隊、八箇

の日耳曼聯隊、三箇の愛蘭聯隊、一箇の瑞典聯隊をなす、其他國境守備隊として二万一千各地方の民兵六萬あり、但し平時此定數を充たすこと甚だ稀なり。されど士官の數は定數以上を超へたり。即ち現役と豫備とを合して六萬有余の士官あり、一千七百七十二年の制規によれば四百八十二人より成る一騎兵聯隊には百四十六人の士官及下士官をせざるべからず、即ち兵三人弱に對し一士官を置く割なり。而して士官の位は、よし精練軍隊中にても金を出して購ふことを得、其購求者は毫も軍務に服したる事なくしても將官の位に昇ることを得たり。ブウヨン公は十一歳にして大佐となり、フローサック公は七歳にして之を得、十二歳にして將官に昇りぬ。當時シャアズウルの饒意廓情を斷行したるも尚ほ軍隊の冗費は莫大の額に達し殊に徴兵の惡法は全く之を腐敗せしめたり。常備軍は志願兵の編入と抽籤による民兵とによりて補充され、此等は六ヶ年服務の規定にして年々一万人を召募するの正規なり。然るに民兵の抽籤は當該地方に於て施行せられたるを以て一大惡弊を起したり。而して志願兵は良好なる兵士となるも聯隊に送らるゝ者は太抵大都會の糟にして、ために敵に對して勢を削ぐこと毎年四千。

僧侶は佛國教師と外國教師との二部に分かたれ、前者は古國に在り後者はフランシス一世以來佛に屬したる領土に住す。此區別は殊に重要なるものにあらず只だ貢税の必要上より來たりたるものに過ぎず。内メッツ、ツウル、ゼルダン、ストラスブルヒの僧正管區（ビショリック）及びトリイヴズ、メエオンスの副僧正管區、コルシカの五僧正管位ピサ及びゼノバの副僧正管位等は僧侶總會に參加せず。ビゾンソン及びカンブレーの大僧正管位は外國の副僧正管區を有す。而して各僧正管區は悉く差等あり、ルウアンのそれは一千三百三十八教位を領し、ツウロン及びオランジュのそれは僅かに廿教位を有す、その歳入又之に準ず。ストラスブルヒ僧正は五十万法の收入を得、ガップの僧正は八千法の收入を得るのみ多數のアッベエは一千法の收入を得るもの稀なり、但しフェーカンのアッベエは十二万法の收入あり、サン・ゼルマンのそれは之に三倍するの收入を得たるは最も異例なり。キュウレートは大抵富有なるもギイカアは餓死せんとす。さればルイ十六世か三百五十法の十分一をその扶秩と定めたるによりていたく彼等の感謝を得たり。之を要するにビショップ、アッベエ、プライオル、及びキャノン等一万二千人の僧侶は教會歳入の三分の一即四千万法

を各〻分配し、其數に於て之に八倍する其他の僧侶及教會員は他の三分の二を享受する次第なり。其他教會にも又世間にも屬せざる小アッベエに付ては更に語るの要なし。

二、社會の狀態

佛には一ヶの法律なくして之に代るに皆一〻異りたる三百八十四項の習慣律存したるを以て一地方に於て適法と認めらるゝものも他方に於ては、不認せらるゝの有樣なり、かくて各議會は又一〻特殊の制定を有したるを以て管轄區域の異なるに從ふて此理の解釋を違にし其立法と千差万別なり。

僧侶、貴族及び庶民の三級は各〻別殊の特權と義務とを有し、是等は佛人民をして三樣の國民を形成せしめたり。而して貴族にも大小の別ありて、前者は主として宮廷若くは廟堂の樞機に參し、後者は他方若くば自已の乏しき采邑に生活す、僧侶にも亦上下の二級ありて前者は富、後者は貧。第三級中にも司法官の喜襲權を有するもの五万戸ありて是等は陰然貴族と同一にして租稅免除の特典を有せり。此下に借地人あり、職人は其下に位し、而して最下級の農夫は獨り社會のあらゆる重荷負擔を忍ばざるべからず。此第三級の下に農奴、市民の分限を有せざる新教徒及び猶太人あり。此階級制は家族内とも存在して長子と末子とは其間甚だしき差等あり、相續權は獨り嫡子にのみ存して次子以下は軍人となるかはた僧侶となるか孰れならざるを得ず、娘子の多くは皆尼院に隱遁しぬ。

各州縣に關してもランギドック・ブルガンディー、ブリタニイ、及びアルトアの如き直轄領所謂ステエト、テリトリイ、は其州縣の所理に關して比較的自由を有し稍〻幸福なる地位に居れり、其他の選擧領所謂エレクト・テリトクイは宮廷の絶對的命令に服從せざるべからず、則ち前者の納めざる租稅若くは割合少く貢きたる其不足稅を支拂はざるべからず。ロールレエン・三僧正管區及びアルサスの如き州は他州との間若くば外國との間に稅關を有せざるも他州は四方之を以て圍繞せらるゝの緩嚴あり。一千七百八十九年南部佛蘭西の各州は其州域に稅關を設けられて、嚴重に離隔せられ隣州との間恰かも外國の如き觀を成せり。鹽稅の如き同一定量に關して彼處は只だ六法を納むるに對し此方は六十二法の暴稅を徵さるゝの不公平あり、廿分一稅の如きロールレイン、アルサス、フランシェ、コントの諸州は他州

の如く嚴ならず、就中ロールレインは全然人頭稅を免除せられたり。之を要するに舊佛蘭西は征服領土たる新佛蘭西に比して過大の負擔を課せられたるなり。其他團體個人に對する特權に關し敘述するの余白なし、一千七百八十三年以來巴裡の廢兵院長、士官學校長、バスチイル典獄長、及び其他宗教團體は免稅の特典を得たり。但し無數の弊害は之より湧起したるなり、何となれば多くの商品は此特典ある人の名義によりて一般に紹介せられ逋稅の惡弊はいよ〳〵社會を混濁せしめたればなり。

僧侶貴族の二級は國家樞要の官廳を獨占せり。武門の出は軍隊を、榮爵ある者は教會、宮廷を、而して長袖者は司法行政の上位を壟斷せり。庶民は專ら製造、商業に日夜營々として彼等が榮耀の資を造らざるべからず。尤も其商買繁昌して裕かなるに到らば貴族の稱號を購ふて侯爵と成ることを得れど、亦其生涯を下民の嘲笑と同輩の侮蔑とに送らざるを得ず。

當時の國民は今日と殆ど同額の租稅を納めたり、されど彼等をして今に比して幾層苛稅に感ぜしめたるもの三事あり、即ち一に今よりも貧なりしこと、二に第三級の人口尠かりしこと及び評定の稅額甚だ不公平なりしこと是なり。而して僧侶は廣大なる土地より供がる歲入に加ふるに全國より徵する十分一稅を收め、而かも自己は、よし貴族たると然らざるとに關せず、全く何等の租稅を納めず、所謂「貪慾なる恩典」に浴したり。貴族と官吏は二三の地方を除き下僕稅と地租稅とを納れず、人頭稅、所得の二十分一稅等直接稅を納むるの義務ありと雖も亦手段を回らして其全部若くは一部の逋脫を圖れり。全國の半分を有したる庶民のみ獨り九千百萬法の農奴稅、三千五百萬法の地主稅、二千萬法の道路夫役稅及十分一稅を負擔せり。ルイ十五世の朝に多く經營せられたる公道に付て國家は只だ技師の費用を支拂ふたるのみにしてその材料は徭役に依りて之を徵し、若くは寄附を强請し夫役を强請して成就せり、爲めに國家に對して甚だ有益なるこの事業も全く農夫野人の乏しき出費によりて完成せるものにして、さらでも窮迫せる空囊を愈〻絞徵せられ、怨恨骨髓に徹せり。

重罪犯は貴族は斬罪、庶民は絞罪の定めなり、こは形式こそ異なれど所詮同一なるが故に殊に物議を釀すことなかりし、されど輕罪犯に對しては貴族と庶民とは

同一犯に課する罰金に甚しき相違ありたり。

組合、管督、乃至商買特許權の制度は商人の數を制限し、惹て競爭を防ぎ、且つ一旦年期奉公を勤めたる商買にあらざれば開業を許さゞりしため大に商工業の發達を阻害し、人をして其技巧を恰かも牢獄に拘禁せしめられたるが如き苦痛を覺えしめたり。一商買の主人とならんと欲するものは其商買特許權を受くるがために三千、四千乃至五千法を納めざるべからず。尚此上に貢物を納れ饗應費を負擔せざるべからず。假令此等の負擔を全部支辨したりとするも尚ほ其開業權の全部を完成し得たるものにあらず、蓋し同業組合の先取權は此創業によりて攻擊を受くればなり。則ち機業者は自ら染色を成すを得ず、染綿絲業者は絹糸毛糸の染色を成すを得ず、帽子製造業者は襪を賣るの權利なし。如是き繁瑣なる細則に拘束せられたる工業者は其製作物の管督者たる警官のために瑣末の粗相、手抜を、尤められ幾度か折角製作したる物を破壞せざるを得ざるなり。工業監視吏の言に曰く「予は多年毎周品物には何等の落度なくして只だ機業染色業の規則に違犯したる廉を以て八十箇より百箇の荷物のローアン市にて燒棄されたるを見たり」と。

當時貨幣は王の發行したるもの只だ一種ありき、一千七百廿六年後は銀貨の種類を變更することなく亦た其價額に於ても暴落激變を來たさざりしがため商業は之によりて苦痛を感ずることを輕減したるも、尚ほ各市に由りて異にしたる度量衡のためいたく煩累を受けたり。一千七百七十年迄印度商會の有したる商業上の特權によりて私商は甚だしく損害を蒙りたるも、間もなく該會社倒壞したるを以て稍息を繼ぐことを得たるも尚ほ暴逆なる制定と專賣權に對して抗爭せざるを得ざりき。ローアンの一商會は當市に穀類一手供給の壟斷權を有し、他の一商會は麥輸出の特權を專占し、又他の商會は搗製の權利を獨占したり、之がため市民は他市他州より之が供給を受くる事を得ず、全く彼等が壟斷の苛虐の下に苦められたり。五穀は一州より他州に轉輸すること能はず、故にその管督は自由に飢饉を起すことを得又充滿せしむることを得たり。換言すれば彼等は同一所に於て甚だ高價に賣り、廉價に買入ることを得るなり。各州を孤立し離隔せしめたる內地稅關はその通商をして恰も外國と取引するが如き面倒困難を來たさしめ通行稅務署はその輸送稅年々の豫算を九千六百萬法と評定とせり。假令ばグレエよ

りアルズに到るにソオン及ローン河を溯流するに三十ヶ所に止まりて通行稅を拂はざるべからず、されば之を通じて輸送する荷物は通行稅務署にその價格の二割半より三割を支拂ふ事となるなり。

舊敎國は新敎國に比して休暇日一年に五十日間餘分なるが故に、新敎國は自然勞働の時間多く、從て其製產物を廉價に賣る事を得、佛は即ち舊敎國に屬すれば又此の反對なり。之を要するに佛の商工業は愈〻是等の虐壓惡制によりて其桎梏の下に枯死せんとせるなり。

佛國全土の五分の一は耕耘を顧みざりし僧侶の手は固定したるがために之より得る收獲は甚だ少なし、而して其殘餘は小農の不充分なる耕作に委されたるを以て之又獲る所多からず、是に於て土地分割の制起り、たるも、土地は中古奴隸の遺章たる借地料を負はされたる農夫の所有に歸しぬ。加るに當時は牛馬の數少なく恰ど現今の四分の一に過きざりければ其結果として充分なる耕作を遂ぐる能はず、漸次土地は荒廢に歸せんとす、只だに之のみならず、大地主にして自ら耕作者となりて斯業を奬勵せんと欲するもの殆どなく、當時の記者の言によれば自己所有の土地に住する地主三百を數するは甚だ難しとする處なりと。こは畢竟曩に愛蘭をして、欠勤主義所謂「アブセンチイズム」なる新語を作らしめたると同一の災殃なり。此時既にヴォーバン及びボアーギルベールは地主の其職業に不忠實なるを攻擊辯難したる處にして、遂に一千七百二十年カウンシル・オブ・ステエトをして、貴族にして親王の土地を耕作するに備はるとも決して其位を辱めずとの布達を發するの餘儀をきに至らしめぬ。前記者は更に說て曰く農夫の職業は尤も中央の諸劦に擯斥せられ、ブリイ、ブオス、ピカルディホに於て稍〻重んぜられたりと。所詮農耕を賤視するに到らしめたる者は一に農夫の生活狀態の甚だしく窮厄禍害に充てるが故なり、げに彼等は苛斂に苦められ、夫役に强徵され、穀商の制定によりて殆ど其身を立つるの餘地を失へり、之に加ふるに田畝に兎囿鴿餘游獵の餘地を設けしめて貴族の亡狀に供へしめたるは貧農の田畝に一大災殃を來たさしめたる者なり。ルイ十五世の朝に開設せられたる美麗なる往還は大都市の間のみにして其他の諸地方に通ずる私道(王設にあらざる)は一〻年中八〻月は全く通行することを能はざるなり、今日見るが如き多數の公道は其開設を見たるより未だ百年を超え

ざるなり。

身體と財産の自由に關して、前者は告訴審問の沙汰に及ばずして直ちに拘禁するを得る暴戾なる特權を握れる大臣及其屬僚の勝手自由にする處となり、後者は各條文に特記せらるる沒收の所罰に依りて常に脅迫せられ、身の措く處を知らず、實に此沒收てふ暴虐なる武器は宮廷の新稅律を發布する毎に武裝する唯一の武器にして、人はよし之に關して紛議を生じ其黑白を法廷に爭ふと常に不公平不條理を楯とする裁判の曲ぐる處となり、毫も下民の正義は上に通ずることを得ず、貴族を訴へて其債務の返償を促せば直ちに裁判休止によりて其權利は破碎せらるゝなり。

時の大審院長マルザルブ、王を諫爭したる有名の言に曰く(拘禁の專斷權出でゝより市民は全く其自由を安固ならしむるを得ず、よし彼等はその自由を犧牲とするも之が復讎を果たす能はざるなり、何となれば彼等は大臣の憎惡を受けて尙ほ安全なるを得る程大ならざればなり」と。

最も苛虐なる暴壓は非國敎徒に課せられたり。一千七百二十六年二百人の新敎徒は禮拜の件に關してグレノブル議會の爲に或は晒場に上げられ或は繫獄せしめられぬ。一千七百六十二年ッウルウズ市會は新敎の牧師がランギダックにて傳道を試みたる廉を以て之を刎首せり、同時に同敎會の三人の靑年紳士は舊敎徒の暴行を加へたるに對して防禦を敢てしたる科を以て斬罪に處せられたり。又同市會は新敎信者カラと稱する者が其子の舊敎徒と改宗せんと欲したるを、殺したりとの誣告(事實自殺したるなり)の下に轢刑に處したり。サルバンと其妻女も一千七百六十二年同樣の罪名を課せられたるも漸く遁逃して之を免れたり。

出版物の檢閲は又甚だ嚴重にして其檢閲官も王の、議會の、ソルボンヌの檢閲官等種々存し、而して彼等は屢々その方法に於て衝突を來たしたり。即ち一方にて許容されたるものも他方にては燒棄せらるゝの奇觀を呈したり。之がために其出版物は高價にて發行され中には大臣の保護の元に刊行されたるもあり。國政又は宗敎を難じたる著書の著者若くは其出版賣捌人は烙印を附せられ或は晒臺に上され、或は死刑に處さるゝあり。之がために二三の人の拘引されたるものありしも行政官は大抵之を看過したり。かく一方に嚴にして他方には之を看過す

るその寛嚴の所置に對し公衆は不審を懷き、人は如何なる書を讀みて差支なきやを知らんがために其法文の研究起れり。こは實にアッベエ・ガリアニイガ雄辯を定義して「バスチイ獄に投ぜられずして、よく都ての事を語り得るの術」と譏刺したるの時なりき。フレエレはフランク族の記事のために彼處に繫獄され、レフレボオ・ド・ボオモンは議會に於て「飢饉合同」てふ反語を放て時の「家族、合盟」を譏りたるがため、繫獄せられ、一千七百八十九年に至る廿一年間拘囚の身となりぬ。

總ての事一として國民を呪ふ痛ましき災殃ならざるなし。ルノマンデイの農夫は大麥を以て其生命を維ぎ、自己の皮膚を以て身體を蔽へり。巴里の倉庫ともいふべきボオスの農夫は一年の內幾月かは賑恤によりて生活せり、其內の二三は羊齒のパンを製して其露命を凌げり。國を通じて殆ど肉の味を知らざるもの多し、實に酸鼻凄慘の極にあらずや。一千七百六十年の一記者は曰ふ「佛國人口の四分の三が一ヶ月に使用する肉の消費額は各一人に對して一封度を超さず」と。蓋し當時學者と雖も尙ほ貧なりしなり、何となれば彼等が莫大の金を出して購ふたる官職の俸給は常に正當に支給されたる事なく、之を購ふたる元金の利子だに足らず、而して彼等が所有する宏大なる領土は耕耘を怠り、恰ど何等の產物を生ぜず。ヴォバンの統計したる處によれば全國に於て稍〻安樂なる生計を送るものは一萬戸より多からず」と。ルイ十五世の侍醫、王呼て「思索家と做すキイネーは計量して曰く、土地の所得として地主の收むる額は七千五百万法を出てず、と。現今の地主は同一の土地によりて之に二十倍する所得を收得しゐる」なり。蓋しキイネーの統計過少なるにはあらず、又百年間に人口の增加したるが爲めにあらず、一に農業の進步是に到らしめたるなり。當時庶民の多くは大抵襤褸を纏ふて烈風肌寒の氷れる日を過ごせり、ラブルイエールの農夫を敘したるの言は實に當時の活畫を見るが如し。

此の如き無道の世にも猶博愛の施設は欠かざりき。基督敎の仁恕は之の設備をして愈〻多からしめたり。されど國民の財源涸渴したる當時に於ては元より其救恤は充分を期すること能はず、乞丐の團體は恒に全國を橫行し、都市は爲めに恐惶を來たしたり。當時救貧院の設立されたるもの約八百、之に寄食するもの十一万の多數に上れり。されど又其死亡數は驚くべきものなりし、即ち巴里のオテル・

ドウに於ては年々九に對する二の割合、今日の約三倍に當る。蓋し供給の不充分なると攝生法も進歩せざりしとは之に到らしめたるなり、佛國中最大なる設備ある該院に於ける其寄寓者は殆ど有ゆる病患に罹りおり、就中傳染病患者多分を占めたるに拘らず、皆同一の部屋に收容せられ、時としては同一の寐床に五人若くは六人を合衾せしめたる事すらありたり。當時寢床の數一千二百十九脚の備に對し病者六千人を收容したる例によりて之を知る。ネックカア王に報告したる文に曰く、「臣はビセトリイに於て同一の寢臺に九人の老夫の腐りたる襤褸に包まれおるを見たり」と。

當時の識者中かゝる多數の死亡者あるを見て其原因を人壽の短縮に歸したるを敢て又不思議とするに足らず。

之を要するに政治組織に於て全く瓦崩せられたる中世紀は民治組織に於て尚ほ其生命を支續したるなり、是あるがために社會の組成元素間に甚大なる衝突起りしなり。當代を支配せる思潮と習慣とは世紀既に十八世に到達したるも慣例と制度とは未だ十三世紀を出てざるなり。されど一旦此差別の覺知せらるるや革命は將に焦眉に迫れるなり、何となれば新思潮は、必らず新制度を要求せずんば止まざるを以てなり。されど未だ此の如きとは宮廷によりても又た戰爭の害毒を投じたる人々によりて毫も念ぜられざりき。大臣にして改革を口せんか、直ちに其地位より失はるゝなり、文士にして政府の周圍に周匝せる暗雲を拂はんとせんか、顧問會は暴戾なる斧鉞を彼が首に加ふるなり。一千七百六十八年即ちミラボオ及憲法議會の出現に先きだつ僅かに廿年ヴォルテイルの罪なき小冊子「四十クラオンの人」等を賣り歩きたるがため晒臺に懸けられたる憐なる者ありしなり。

人心の激動革命の要求

輿論の點火したる矩火を其脚下に蹂躙し得るの政府は必らずや甚だ盛榮、甚だ強大なるものならんを要す。ルイ十四世は嘗て其閃光を認めたるときに之を敢てしたり、今のルイ十五世は能くし能はざるなり。吾人が前に數へたる害毒、差別、不公平、紊亂乃至國民の災厄は彼等を攪起して其原因の何處に在るやを考査せしめたり。ヴォーバンと、ボア・ギルベイルとは財政上より、フェネロンは政治上よりその革變を要求せり。權政期間の知力の自由、寧ろ放恣と

もいふべかりし者は、よく言論をして盡くす處を成せしめたり。ブウルボン公は僭越なる此考査研究を防遏せんと努めたるも亦仇なりき。佛に初めて見たる「地下室倶樂部」は彼が執政の時に創設されたるなり、ブルウリイは之を閉さしぬ、されど之と同時に未來の執政たるダアルジマンソン侯は(佛國政治の研究)(一千七百三十九年前の昔)を著して地方分權制を要求し、地方行政を自治郡縣制に代へんことを要求し、同時に內外の商業の自由官吏推擧に投票制を用ゐんことを要求せり。「此論の主義は民政主義に都合好きものなれど、所詮貴族を破壞せんとするものなりと難せらるべし、げに人はしか難ずるを謬らざるべし、……吾人は國家は康安を乞はんがために專ら二物の得んとを欲するものあり、之を得んがために最も愚かなる僻見の拋擲せられんことを、願ふ、二物とは何ぞや、一に曰く有ゆる市民は各自に平等ならざるべからず、二に曰く人は皆な自己の事業の赤兒ならざるべからず、即ち是也、而して貴族の國家に對すること恰かも雄蜂か蜂房に在ると異ならず。實に革命に對する信仰箇條の一は之によりて優に表白せられたり。他の一大臣マシャウは庶民のみ獨り負擔したる賊奴稅を廢してこれに代ゆるに從來特典を受けたる貴族と僧侶とに地租稅を課せんことを要求せり。ショアズウルだに尙ほ改革を語れり。彼はコルベエルと同じく、僧院の數甚だ夥多なるを見、以て企圖すらく、宏大なる領土を有して而かも免稅の大恩典に浴する敎會より、恰かも一千五百六十一年ポントアズに行ふたるが如く、其特權を剝ぎ、之をして納稅せしめば國家の涸渴せる財政を優に裕かならしむることを得べしと。

此の如き思想一般民心に醞釀しつゝありとせば、現に總ての社會上、政治上、將た宗敎上の諸問題を計査考量しつゝある人々は抑も如何の云爲をか成す。吾人は上に十八世紀の文學か企圖したる斬新奇拔なる演戲に付て攻究する處ありたり。而して此知的活動は社會の頂上より下底に透徹し、歐洲全土に一新勢力を創始したり、政府其勢力を感知し、最大强力なる國王だに之を承認するの止むなきに至れり。佛の國民は之に對して久しく傍觀の位置に立てりしが、今や自ら其興趣を解し、遂に改革を望み變改を願ふに到れり。

行政は最早や最も熟練なる者だに尙ほ道を失はしむるが如き迷空たるべからず、一般財政は久しく劫掠の上に建設せるべきものにあらず、人は各身體の自由と

財産の安固とを享有せざるべからず、刑法は更に緩ならざるべからず民法は益〻公正ならざるべからずとは一般民心の願ふ處なりき。

死の刑罰を以て課せられたる敎條に代ゆるに更に寛裕なる敎條を得ざるべからず、專斷、差別、不公平、三百八十四條の習慣律に代ゆるに自然に而して合理的なる權利を基礎としたる法律を得ざるべからず、極度に混交せる度量衡に代ゆるに更に簡易なるものを以てせざるべからず、窮厄者に課稅して富裕者に免稅するの惡稅律に代ゆるに萬人均等に支辨すべき稅律を得ざるべからず、組合の獨專權に代ゆるに自由競爭勞力の解放を得ざるべからず、名門富豪の特權を排して、何者も自由に登用せられざるべからず、一般の利害に關して無く無頓着なりしを止めて最も活潑なる注意を之に注かれんことを要す、一言すれば法律の前に立て平等なること、權利に從ふて自由ならんことを欲するは一般の要求する處なりき。

是等の要求は必ずしも貫徹し獲得せざるべからずとはあらゆる烱眼者の等しく認むる處寧ろ之を得るを以て尋常の事なりと認めたり。此の如き無數の豫言者に依りて警鐘を亂打せられ、此の如き激烈凄慘の革命を擧げたること古今を通じて未だ有らざる處なり。カティネー、サン・シモン、ライプニッツだも既にルイ十四世の朝に於て未來を杞憂したり。一千六百九十七年の往時に於てボアー・ギルベイルは曰く「訴訟は今や納稅者と收稅者との間に起らんとす」と。一千七百十年フェネルンは曰く「舊廢破壞せる機械の今尙ほ活動を續げおるは畢竟過去より來たる隋力に外ならず、一旦撞突を見んか立處に粉碎すべきなり」と。ルイ十五世の放心無感覺を覺醒せんと努めたる唯一人の廷臣シャトオロオ公爵夫人は曰く「激烈なる治療法を加ふるに非ざれは間もなくして倒落せん」と。只だに國內の識者の之を唱へたるのみならず國外の人又其考察を全ふせり。英のチェスタアフィールド卿は曰く「嘗て歷史の徵候に見たる有ゆる物、大革命の前兆先驅は今日の佛國に現存し日愈〻增大せり」と。獨逸の大哲學カント又同じく之を思念したり。

眞に世紀の進むに伴れ、國民の羞耻增長するに從ひ初めて諷刺的に出てたる聲は益〻嚴勵となり、悲壯となれり。「波斯文學」を以て始まれる此御宇は「社會契約」を以て其末を鎖しぬ。或者は照々たる希望に燃え、或者は冲々たる憂慮に震慴せり。一千七百六十一年にウソォ巴里市長と瑞西に庇匿の選擇を議したる席次に謂て

曰く「其辭は毫も吾人を恐惶せしめず、何となれば余は彼の如く、はた其他、衆人の如く將に傾斜せる制度は佛國をして迅かに倒覆せんとすと思惟すればなり」と。其後二年にしてロオアンの議會は王に告て曰く、積弊は今其極度に達し、最も怖るべき將來を豫表す」と。一千七百六十四年四月二日ヴォルテイル、ジョオヴリレ侯に書を裁して曰く「余か目擊したる物は皆な必然來たらんとする革命の種子を播蒔しつゝあり、佛人民は其歩を徐々として進めたるも遂に其到るべき地に達しぬ。燈火は一隅より他隅に撒布せられたり、一度或物の觸着せんか火は直ちにパットと發し、世は一時に煌々たる光を見ん。青年は實に幸福なり、彼等は燦爛たる光彩を睹得べけんなり」と。

されど此燦爛たる光彩は不幸にも甚だ悲慘なる大破綻と混交したり。蓋し此大破綻はもし夙に國民の正當なる要求を容れ大讓歩を致しなば容易に之に到らしむるに及ばざりしものなり。

初めに小心翼々たる企圖は擧げられぬ。十八世の第二半期に於て拂國民心のために興起感奮せしめられたる政府は擧げられたる革命の止むなきを承認しぬ。

此人心の一大活動は歐洲の全土に瀰蔓し、葡萄牙又之を起し、露國の深谷にすら其波動を擧げぬ。乞ふ少しく吾人をして其性質と結果とに付て考察を遂げしめよ。

各政府の擧行したる改革

一千六百四十年西班牙領土より走りて葡萄牙に逃れたるブラガンザのジョン四世の第四代ジョセフ一世王は一大改革を試み國家の窮厄を拯はんと企圖しぬ。彼は一千七百五十年カルヴァルヨのジョセフ(後にポンバル侯となる)を擧げて宰相に任じ、其企圖を輔翼せしめぬ。此宰相彼はゼズイット教徒の此計畫を妨げんことを慮り、王を危ふせんとの陰謀の連累に彼等を坐せしめ遂に一千七百五十九年國外に放逐し、時に異教審問所の權力を殺ぎ、スウザ及びブラガンザ等の最も勢力ある大公を流謫して貴族を脅かしぬ。時偶、一千七百五十五年三萬の人衆を傷ふたる大地震はリスボンの首都を破壞し、彼之を數年の内に再興し歐洲最美なる都市の一に算せしぬ。爾來年々有要なる新設、榮譽ある企圖を擧げ、工業は輸入税の增加によりて其發達を奬勵せられ、農業は專門學校の開設によりてオーエラス運河の開鑿、アレンテジュオ河の改修等に依りて迅

速の進歩を促がし、華族學校、小學校等の開設によりて教育は一般に普及せられ、軍隊は改造され、兵士の支給は充實し、常備軍として三萬二千の兵員を備へぬ。徵稅の方法を改革し財政の刷新を計り、國庫は豐裕となり。バアバリイ國の海賊は剿滅せられ、印度に於ける葡國商業の鎖鑰たるモザンビックには要塞の防備設けられ、植民者は多くブラジルに移送され、一千七百五十四年印度支那との貿易を壟斷する大商會建設され、一千七百五十五年又マランハオ及びグラオバラ商會建設せられぬ。されど不幸にも彼が餘りに急激に改善を見んと欲したるため事實之を見る事能はざりき。彼が最善なる施設最美なる制度は却て此急激の改革の犧牲となり、一時強力なる行政の電氣に依りて蘇生したる葡萄牙は爰に又再ぴ舊の羸弱に戻りぬ。一千七百八十一年ペドロ四世の時ポムバル侯は極刑の宣告を受け、恩赦によりて逐放され、是より後十ヶ月にして遂に逝き葡國の柱石既に倒れぬ。

西班牙亦新王朝の下に復興したり。ヒリプ五世は暗弱放逸にして國家改善の功に與らず、王は二度廢位され二度之を復し、而かも常に王妃權臣の左右する處となりぬ。即ち王妃オルシニのため、次で歐洲を攪亂せんとしたるアルベロニイのため、又第二王妃エリザベス・ファルネスのために、帝王妃は王を誘ふて戰亂を起さしめ、其結果(一千七百三十四年)一王子に兩シシリイを、一千七百四十八年他の王子にパルマ・ピアセンザを與えしめたり、最後に賢臣バチンホの支配する處となれり。此宰相は西班牙のコルベエルと稱賛せられたる人にして兩國海軍は氏の下に復活することを得たり。

フェルヂナント六世(一七四六—五九)の下に盛運の方向は一定したり。當王は各周二日各參内者の拜謁を許るし、善謀雄猷に聽き、稅を輕くし、農業を奬勵し、財政司法を刷新し、商業を活潑ならしめ、工業を進歩せしめカスチイルの運河を開掘し、一千七百五十三年羅馬法王と和協し、以て西王に宗教上の恩澤を蒙らしめ、鋭意改善の功を擧げぬ。國庫に五千九百萬法を充實せしめたる曉四十五歳を一期として遂に殂しぬ。此御代の間地震のために伯露のリマとキトとは全く瓦壞し、又たリスボンの大地震の餘波を受けて、本國少からざる損害を蒙りぬ。

ヒリップ五世の嫡、第二王妃エリザベス・ファルネスとの間に降誕したるドンカロは一千七百三十四年來己の戴したるネープルの王冠を其王子に讓り、己はチャールス

三世の名の下に西班王位に即きぬ(一七五九—八八)。王は一千七百六十六年外交界の英傑ダランダ伯を擧げて宰相に任じぬ。伯は一夜にして二千三百のゼズイット教徒を縛し之を國外に移居せしめたり(一千七百六十七年)。而して彼等は本國との通信を嚴禁され、僅少の補助金を與へられたるも後其教徒の一人の非行によりて之れを剝奪せられたり。ネープルス及びパルマ此例に倣ひ、一千七百七十三年羅馬法王は此法令の無効を布告しぬ。之を要するに此の如き過激の壯擧を致さしめたるもの伯の積弊を寛容せざるの意志を示すものなり。伯は尙ほマドリッド市の保安のため警察を建て或は國勢の調査を試み、或は宗教裁判の權限を制し、以て異教審問所の權利を殺ぎたり。一千七百七十三年羅馬法王と僧侶とは彼が竦腕を怖れ王に强請して遂に宰相の地位より貶し佛國大使に遠離せしめたり。されど彼が後繼者フロリダ、ブランカ伯(マルシアの市民の子)又た彼と仝じく國家の改善を謀り、毫も改革は其歩を止むる事なかりし。

彼が執政の下に於ける改革企圖として、まづ人口の缺を充たし、農業を復活せしむるがために夥多の農夫は日耳曼より輸入せられ、公道は修繕され、チャールス五世世の下に着手したるアラゴンの運河に續て完成を上げ、新たにマンザナルズ、マアシア、ガアダラマ、サンカロス及びウルゼル等の諸運河開鑿され、內國の穀商は自由を許され、セント・チャールス銀行又建設せられぬ。一千七百十八年アルベルニイの經營したるがアダラキザラの紡績會社はサンフェルナンドのそれと合同され、此一工場に使役せるに職工二萬四千の大數を算したり。セントイールドフォンズの麻布製造場とトレドの武器製工所とは補助金を得て益〻盛大となり、一千七百七十三年發布の勅令によりて商工業は決して貴族の榮位を辱かしむるにあらざる事を確證し、他の一勅令によりて博物學の研究を奬勵し、植物園建設され、繪畫研究のアカデミイ諸所に開設され、同時に稅關と郵便局の開設を見たり。陸海軍の良材を養成する砲科學校セゴビアに建設され、工科學校カアタゼナに開設され、騎兵學校オーカナに建てられ、戰術學校アヽビウに建てられ、之と同時に一千七百六十一年三十七隻を算したる戰利艦は八十隻に增加されかくて亞米利加獨立戰爭に際して佛の海軍と戰ふて其優を振ふことを得たり。されどチャールス三世はバアバリアの海賊剿滅を企てゝ二度失敗し、ジブラルタルを英國より回復すること能はざ

りき。一千七百八十八年王の殂したる際西班牙の歳入は三倍に増加し其人には七百萬より一千百萬に増殖したり。されど王が鋭意企圖したる改革は嗣王チャールス、四世の暗弱のため破壞せられ、遂に其王位と那勃翁の手裡に皈せしむるに到りぬ。

チルス三世は西王に登極する前チャールス七世の名によりてネープルスの王國を統治し此地又賢臣ベルナルド・タナクチイの輔佐によりて改善の功を擧げたり。當時ネープルス王國には十一種の人民即ちノルマン族、スワビアン族、アンゼヒンズ族、アラゴンイズ族、アウストリア人等の種族に屬したる相續權になる十一ヶ以上の立法制ありたり。王は之を一に統合して整一の法典を製したり。而して此地の僧侶が特權と恩典とを有したるを一千七百四十一年法王ベネヂクト十四世と誓約を協訂し之を減じ、同時に僧侶の數を制限したり。此際宰相タナクチイは封建制を持續せんとする貴族の反抗に會したる毅然之を敢行し、法律をして貴族よりも權力ある者となし、遂に彼等をして王室に忠順ならしめたり。文學科學亦大に奬勵せられ、ハアキュラニアム及其他の翰林院建立せられ、大小の教育設備亦大に刷新の功を擧げ、サンカルロ、の劇場、公立救貧院等の如き美術上の一大紀念物はネエプルス市を永久に飾りぬ。フェルヂナンド四世八歳にしてチャールス七位の後を襲ふに及びタナクチイは其攝政として又一層果斷なる改革を擧げぬ。其主なる者は十分一稅の廢止、僧院の大削減、ゼズイット教徒逐放及び國民教育の普及等なり。最後に彈劾を受けて其攝政の位地を貶けられ、かくて一千七百三十四年より同七十七年に到る四十三年間國政を執れり。此間大に攻革の功を擧げたるも遂に永久的の改善を致す能はざりしぞ遺憾なる。フェルヂナンド四世の御代は一千八十二十五年に到る迄他大なる冒險家の中原となりぬ。かくてタナクチイの後ネープルスの萬事は女皇マリア・カロリナの恣にする處となりたり、后は日耳曼帝ジョゼフ二世の皇妹にして一千七百八十九年後佛に對する激しき敵慨を以て有名なり。

一千七百三十七年メディシス家の最後の王ジョン・ガストンの薨去以來タスカニイはマリア・テレサの夫帝ロールレエン公フランシスの掌裡に歸しぬ。當王はタスカニイ人民より外國人と見做され愛敬せられざりしもクラオン親王、リシュクウ

ル伯等の英才を擧げて立法財政に善美なる改革を遂げぬ。其第二王子、皇帝ジョゼフ二世及び佛皇后マリイ・アントアネットと兄弟の間柄なるピイタア・レオポルドは一千七百六十五年より一千七百九十年に到る間タスカニイを統治せり。王は二百年間の惡政の積弊を改革するに造次も之を怠らず、まづ刑法を緩にし、商業に自由を與へ河川改修の功を擧げて水害を防ぎ、最も勤勉なる耕作者に土地を頒與し、敢て過重の借地料を徵せず、此の如くして農業の生産物を倍增し、以て其臣民に久しく喪失したる活動と工作とを回收せしめたり。されど王は往々異教審問所に對して餘りに嚴厲なる監督を附したる爲彼等の忿懣を招き、且つ宗教に施したる改革の爲に最も激烈なる反抗に會したり。要するに王の爲めに負ふ處甚だ多き人民は彼を感謝し其德を頌ずる事なかりし。最後に王は死刑を全廢したり。

サルヂニア王國は一千七百六十一年及び同六十二年の兩勅令によりて、佛國が一千七百八十九年に至つて初めて享受したる恩惠即ち封建制の擺脫を得たり。

マリア・テレサの嫡ジョゼフ二世の流入鼓吹したる新思潮は墺國の全土を瀰蔓したり。帝王は一千七百六十五年父帝ロールンイン公フランシス一世の薨去後日耳曼皇帝に選立せられたり、されど墺國統治の實權は依然母后の掌握する處となりぬ。王は露帝ピクタア大王の例に倣ふて外國視察に上り、次で內國の視察を遂げ、一千七百八十年母后の逝去の際には其改革に熱冲せる最中なりき。

墺國を構成せる各聯邦は各自の法律を以て政治を行ひ、其間之を統一する弊緒なかりき、ジョゼフは廣大なる行政組織を立てゝ之を統一せんことを企圖し各隔離獨立せる管轄廳を廢して十三州に合し之を郡に細分せり。當時司法の要部、軍司令權、警察權の各地に存在したるを廢し、政治、所謂行政、司法、軍務の四廳に統合したり。かくて國內一般の事件は皆納也納の諸廳に集中せられ皇帝の獨裁權も封建制の煩瑣縟禮と更りぬ。

一千七百八十年十分一稅、夫役、地主特權皆廢せらる、宗教は羅馬舊教を國教とするの勅令發布せられたり、かくても尙ほ羅馬法王の勅令は帝の元には其權力を振ふこと能はず、僧侶は皇帝の權力の下に依屬せしめられたり、而して僧正領の歲入は削減せられ、一千〻寺以上の寺院は病院學校、兵營に代用せられ、新たなる四百の牧師管所增設せられ禮拜は總て自由に放任され、長子相續權廢止され、結婚は簡易

なる民法上の契約に依りて承認せられ、離婚又簡易となりぬ。一千七百八十一年十月十三日發布の有名なる信教自由の勅令は希臘教、新教の奉信を自由ならしめ、猶太人は公立學校に入營を許可され、聖書の獨逸譯亦試みられぬ。法王バイアス六世は帝の果斷なる改革を防止せしめんがために維也納に行啓したるが、帝は其老齢と人格とに對し相當の禮を以て厚く之を遇しぬ。

帝は學者にあらざりしも科學と藝術との奬勵發達に怠らず、大學を立て圖書館を建て物理博物の講延を開かしめ、教會より出版檢閲權を移して同代の碩學鴻儒の手に委ね、同時に臣民にして廿七歳を超えざるに外國に行く事を禁じたり。而して商工業又大に保護奬勵せられ、到る處工場建設せられ、各地方の稅關廢止され、輸入貨物には多額の稅を課し、其初に各内地諸州の産物は互に交易することを許され、トリイエスト、フヒウーメの兩港は自由港として開放され、新道路は開かれ、河川は開鑿改修せられたり。

此の如くして一としてジョゼフ二世の果敢なる改革の手に觸れざるものなし、要するに帝は總ての物を一新せんと欲し、臣民の幸福安寧を增進せんと欲し特に自己の權力を增大擴張せんと企圖したるなり。されど彼は此内政改革の事業を以て其無際限なる野心即ち其勢力を擴張膨大ならしめんとするの政略と混淆せしめたるの點に於て大過誤を犯したり。メエストリクト及びミユウズ河對岸の地の要求は端なく和蘭と隙を構へ、遂に和蘭か佛國と同盟したるにより和議を結び彼より一千萬フロツンを得て落着したり。バウァリアに對する計畫は英普、サクソニイ及びメンツ選公及び日耳曼諸侯との間に攻守同盟を結ばしむるに到りぬ。彼又土耳古を露國と兩分せんことを夢想し、土帝露に對して開戰を宣するに及び(一千七百八十七年)、彼亦た露國と同盟者なりとの口實の本に故なくして土國に當りぬ(一千七百八十八年)。されど彼ベルグレードに敗し、土將ユウサフ匈牙利を蹂躙し、彼亦テメスヴァルに敗れ墺軍の名聲地に墜ちんとしたるも大將ロードン及びコオブルヒ親王の勇武に依りて漸く武益の名譽を保存するを得たり。而して一千七百九十一年の平和條約に依りて二ヶの小邑を得たる到底莫大なる軍費の賠償とはなるべくもあらず。此時に際し内憂外意一時に勃發し、匈牙利まづ叛す、其貴族は彼が封建制の特權を破壞したるために仇し、その人民は宗教上の改新により

て彼等を傷ふたるがために彼を怨めるなり。次でヌザーランド又起りぬ、こは彼が彼等の傳來の自由を奪ふて新稅を課せんと欲したるを憤れるなり。最後に佛國革命猛烈なる勢を以て爆破し、彼が皇妹なるマリア、アントネットを脅かすのみならず各獨裁君主を威嚇せり。かゝる多事の時に當りジョセフ二世は自己が生來の所行を悔ゐ、後世にその賞贊を遺して遂に墳塚に下りぬ、時は一千七百九十年二月廿日なり。

普王フレデリック二世は十八世紀改革者たる王侯中最も光榮なる地位を保てること吾人の前に叙じたる處なり、今更に贅せず。露皇カザリン大女皇又彼と比肩の地位を保てり。后は西洋文明を鍾愛して是が代表者當代の文豪と文通往來し、ヂデロ等の碩學を宮中に招きたる事吾人已に述べたる處なり。而して是と同時に莫斯科知事の學校の空虛を嘆じたるに答へたる言又讀者の既に知事する處なり。

瑞典王グスタヴス三世、一千七百七十二年の改革によりて獨裁權を再握し、拷問を廢し、金錢によりて其理を曲くるを意とせざる判官を制遏したり。之と同時に乞丐者に勞働を附與し、國費を以て醫師を遠隔の寒村に來診せしめ、四子を擧げたる勞働者には人頭稅を免除し、或は歐洲全土に職工を募り、國家唯一の富たる銅鐵の產額を培增せしめ、又或は海夫に特權を與へ、カッテガット灣のアールストランドを自由貿易港に開放し、以て商業の活潑を促がし、又或は穀類融通の自由を許可し、或は休日二十一ヶ日を廢して國民生產力の增加を企圖し、銳意國富を計らざりしもの、なし、王は又フレデリック二世と等しく佛國文學の愛慕者にして文藻に富み其述作も少からず、中には劇曲をだに作せんと試みたる跡あり。

ルイ十五世の晩年（一七六三、一七七四）、及び政治上軍事上に於ける佛國の衰頽

歐洲全を攪亂したる一大活動に衝動を與へたるものは實に佛國なり、而かも自らは此改革に與らざらんが如き視を呈しぬ。他は皆着々改新の功を擧げつゝあるに佛は日々急坂を降下しつゝありき。普國王フレデリック二世の成功と露國の勃興とは彼を衰運の域に陷らしめぬ。エイ・ラ・シャペル條約に於て佛はザクス將の武勳によりて最强力なる軍國の觀を呈しぬ。されど七年戰爭に於て全く其醜體を曝露され、將官の愚朦、兵士訓練の怠慢、等は世の嘲笑を招き正に軍事の

資格に於て一大暴落を來たしたり、海軍に至りては啻だに衰微といはんよりも寧ろ沒落の狀態なりき。此衰運を挽回し、內政の紊亂を整理し、將に進步しつゝある革命に對して更に緩和なる改革を擧げて之を未然に防がんことは何人と雖も放逸淫蕩に沈溺せる國王に期待し得るものあることなし。

ルイ自ら成し得ざるものは何人と又能くし得ざるべしと信ぜり。且つ彼は大宰相を有せざりき、尤も其國を愛し、治療すべき國家の惡弊を認めたるショアズウル公有りと雖も彼は只だ忠良なる臣たるに止まり未だ大賢相にあらざりしなり。平和締結後彼は專ら軍隊の荒廢を回復するに努め、又マショオの轍を踏で海軍の再興を計り六十四隻の戰利艦と五十隻のフリゲエトとを建造せり。かくてコルシカが其宗主たるゼノバに反旗を擧げたるを討服し一千七百六十八年之を佛領に隸屬せしめたり。那勃翁は其翌年即ち一千七百六十九年正しく佛人として此地に生れぬ。スタニスラウスの逝去に先きだつ三年、ロールレインは佛國に再び合併せられぬ。此際英國は宣戰して西班牙を脅かしぬ、是に於てショアズウルは彼等を反省せしむるに足る强力なる武裝を備へて現はれぬ。之と同時に亞米利加植民地が其母國に對して擧げたる反抗運動を奬勵し扶助し、或は又葡萄牙和國を誘ふて英國との同盟を脫せしめ、瑞典政府に勢援して露國の陰謀を遏防せんと努め、立國の惡制のために日々奈落に近きつゝある波蘭と親交なる握手を試みぬ。此の如く着々として、成効を告げたる外交政略もギアナ植民策に於て挫折を見たり。ショアズウル行政の重要なる行動として見るべきは、假令自ら手を下さゞりしにせよ、ゼズイット敎徒に課したる抑壓なり、即ち彼等の制定は一千七百六十二年の議會條例によりて禁止され、アンチルズに傳道を擧げたる敎父ラエレットをして三百萬法に對し破產の悲運を招かしめたり。かくても尙ほゼズイット敎徒は彼等の後援に强力なる一團體を遺せり。彼等はショアズウルを除かんが爲め百方手段を竭くしぬ。ポンパドウル夫人は一千七百六十八年に卒し其後をドウバアリイ襲ひぬ、此妖婦の出現はエルサイユ宮に印したる一大汚點なり。ショアズウル公は此婦人の前に屈するを潔とせず。遂に彼女は王を惑はして彼を排除し、一千七百七十年逐放に所せられぬ。

此世紀を通じて議會は絕えず反抗の氣慨を示めし王も之が抑壓を固しとせり。

ジャセン教徒を懲罰したるユニジェニタス勅令に付て僧侶と議會との衝突は十八世紀を通じて之を攪亂せり。王は彼等に沈默を命じたる其効なく一千七百三十三年議員を追放に所しぬ。されど彼等は何等の容許もなくして間もなく飯還せり。再びゼズイット教徒の紛議は葛藤を惹起し、一千七百七十年のデエギョン公に對するそれは爭鬪を曝破せしめぬ。是に於て王は「正義の床」に出りて其訴訟を中止せしめ、マジストレエトが司法權の行使を停止せしめぬ。此際王謂て曰く「彼等は王室をして書記室とならしめんと欲するなり」と。かくてデエギョン、ショアズウルの位地に代り、大法官モオピオ議會を抑制せり。こは王室に對して最と不祥なる事件なり。ルイ十四世及びリシェリュウは曩に貴族の政治上重きを成すを破壞し、十五世は今又マジストレシイを破壞したり。扨て是に到りて老朽せる大夏を支へ、君主を庇護するがために殘存するもの何者か在る。

君王を恥かしむるの事件は日一日と加はりぬ。一千七百七十三年波蘭分割に際し墺、露、普の三國は一言の干渉を佛より受くる事なくして之を完成せり。一千七百六十五年の穀類專賣制は「飢饉合同」てふ功妙なる警句を以て諷譏せられたり、げにこは秕政中の最惡なる者にして之が爲に一千七百六十八年及同六十九年の人工的凶歉を招けり。アッベエテルレエの公債回收策は破産の外何等の救濟を見出さざりき。四方より起る抗議に對し彼は冷然答て曰く「王は主人なり必要は法律を顧みず」と。彼は歳費の不足額四千百萬法の據置を許容せり。一千七百十五年より租稅は一億六千五百萬法より一躍して三億六千五萬法に增加せられぬ。蓋しルイ十五世はかゝる苛歛の補償として怖るべき事件の愈〻接近しつゝあるを知れり、されど彼自ら之を慰めて曰く「此事は朕が存命の間猶止まざるべし、されど我が嗣子は全力を竭くして之を免るゝ事を力むべし」と。

ルイ十六世の朝に於ける改革の企圖及其放棄（一七七四―一八九四）

ルイ十六世の即位せしとき歳僅かに二十歳王は儲君の王子にして即ちルイ十五世の王孫に當る。王は道義の念に富み持操、清淨、知見稍〻狹隘、性怯懦にして言ふ所意を竭さず、又善を愛し之を欲せり、されど意志虚弱にして己の意を人民に課する能はざりしぞ不幸なる。彼は其初耶蘇降臨祭の贈を割きて人民を賑はし、人心を收攬するの策として國會を召集したり。王は老耄不能のモオルパを入れて内閣を作ら

しめたるも奸臣モヲペオ及びテルレエを廢してマルザアブ及びツルゴオを擧げぬ。マルザアブは一千七百七十一年の往時にをいて國會(ステェトゼネラル)の召集を要求したる人はツルゴオは又た秀拔なる智能を有し革命を豫言し、自らこれに着手し之を指導せんとする當代唯一の政事家なり。其後淸麗を以て有名なるザンセルメーン伯を軍務大臣に任じぬ。氏は其同僚が財政行政を刷新せんとしたるが如く又軍隊の廓淸を斷行せんと欲したり、されど餘りに急速に多くの事を改革せんとしたるがため其の着手點に於て正當を缺ぎ全禮の上より觀て却て其改革を阻害したり。

ツルゴオ亦た兼て計畫したる宏大なる改革案を即時に實行せんと欲したるも其初企に於て反對に會したるを以て餘義なく徐々に之を行ふこと做し、まづ最も緊急なるものより着手したり。即ち五穀麪粉專賣權を徹し其融通の自由を承認したり。然るに彼か敵手は之を以て五穀の輸出を許さんとするの企圖あるものなりと吹聽して人心を動搖せしめ人民は飢饉の來たらんを杞憂し暴徒諸所に烽起し、ヴルサイユ、巴里にも其餘燼及びぬ。是がため餘義なく、武力を用るの必要に迫り一千七百七十五年五月軍隊を以て鎭壓せしめたり。ツルゴオは更に夫役を廢して之に代ゆる地主をして其の租稅を納めしむるの方案を立て王の裁可を得るに及び彼に對する批難攻擊は愈〻加はりぬ。又更に彼は監督制及商買特許制を廢止し商工業に自由を得しめたるに到りては又敵勢をして多からしめぬ。

主相モオルバは私かに王に取り入りて信用を扶植したれば事なし、皇后は只だ財政の事のみを語る大藏大臣已の意に充たず之を攻擊せり、且つマルザルブはツルゴオと同しく特典級等の迫害を蒙り遂に彼まづ免官に遭ひぬ。ツルゴオ又た一千七百七十六年五月十二日內閣を職すべき辭令を受けぬ。ヴォルテイルは「人間に對する使徒」てふ頌詞を作りて彼を贊し、アンドレ・シェニイエ又「佛蘭西に獻ぐる頌歎」に彼か德を欲しぬ。かくて其後四ヶ月にして王は夫役及び商買特許制の復舊を特典級に許しぬ。

此時に際し亞米利加戰爭は將に起らんとす、是に於て新費用を得るの必要に迫り財政家として名聲一世に轟くゼノバの銀行家ネグカルを立たしめぬ。彼は新敎徒にして又外國人なるの故を以て財政顧問の名義の下に一千七百七十六年十

月入閣しぬ。娟介妬忌の主相マオルバ、放恣なる王、貪慾なる宮臣等に繞され、最も操縦するに困難なる地位に居る五年、此間少しも己を辱かしむる事なかりし。彼は其局に當るや先づ歳入の不足額を塡充せざるべからず、亞米利加戰爭の軍資を供給せざるべからず、各種の稱號を有する宮臣官宦其臣屬等、甚だ面倒なる群衆に充滿する宮廷の莫大なる費用を支辨せざるべからず、彼はこれをよく成したり、而かも增稅に因るにあらず、又王室費を甚だしく削減するものあらず、只だ徵稅の浪費を削き、瑣細にして而かも有要なる無數の改革を施して、乃至四億法の公債に依りて之を成し得たり。而して彼は此公債償返法を年金制によりて借り入れたり、此法は公衆の信用を得るには都合よきも、かゝる面倒なる條件によりて借入るる事は只だ一時の困難を彌縫するのみにして之を解決し、去るものにあらず。彼の下に於ても依然財政の缺陷は深かりし、彼か之を充たさんが爲めに專ら未來に依賴し平和に依賴したり。之れ彼の去らざるを得ざる所以、さても如何なる大臣か彼の後を襲ふ。

ネックカルは米國戰爭の終る前二年にして倒れぬ。彼が顚落の機會となりたるものは一千七百八十一年に發布したる會計報告に之れ因る。此は歳入と通常經費とを示めし、一言の公債、軍費に付て語りたるものなり、之に因れは歳入は歳費に超過すること千萬法なり。人民は從來厚き被覆を以て秘密に附せられたる財政の、今やよしその一隅なりとも之に因りて窺ふことを得て觀喜措く能はず、資本家は爭ふて二億三千六百萬法を當大臣に貸與したり。之に反して宮廷は人民に報告したる此擧を以て恰かも自己の密事を露かれたるが如く思惟しネックカルを憎むこと甚だし。げに日光一度暗黑なる財政を照したる以上今後恩給は如何になり行くべき、從來慣例としたる奪掠は又行ふ能はざるに到るべしとは宮廷の憂患なり。遂に彼は一千七百八十一年五月廿一日罷免の辭令を受けぬ。彼か施設中此等財政上の改革以外更に轉記すべきものあり。彼は王室領の奴隷を解放し奴隷の逃亡によりて其全財産を主君たるものの沒收する權利を廢し、且つ豫審の拷問制を廢止せしめたり。

亞米利加戰爭に於て佛は新人民の興起を扶け、以て一國民として其位地を保たしめぬ。更に亦た瑞典に補助金を支給して、公然グスタヴス三世を扶助するの意

志を表泊し、以て普國及び露國の野心を防遏したり。又た他面に於て墺國の攻襲よりバヴァリア國を拯ひ、普墺の確執に際し露に提携し調停を試み、一千七百七十九年デッシェン條約に和議を結ばしめぬ。此の如く其外交は且武力と等しく多幸多福なりき。

されど勝利を得るには莫大なる高價を拂ふたるなり、而してネックカル後財政は無能なるジョリイ・ド・フルウリイの手に落ち、次でカロンタの手に落ちぬ、彼は戰時三年間と平和の時々に於て國債をして五億法の巨額に增加せしめたり。かくて財界の地置は善に歸らずして愈〻惡となり、有繋に無頓着なりし王も今や看過するを得ざるの時到りぬ。是に於て放蕩家は改革家となりぬ。カロンヌは前代の政策を、彼此混淆し折衷政策を工夫し、特典級に地租、收入稅を課し、地方議會を開き、賤奴稅を廢し、穀商に自由を與へんとの提案を製作したり。一千七百八十七年二月廿二日此提案を討議するが爲めに貴族の議會は召集され、貴族は立處に之を否認し、彼を攻擊して措かず、遂にカロンヌは倒れぬ。

ッウルウズ大僧正ブリエンヌは彼に代りて其椅子を占めぬ。彼は野心に富み又た計畫に巧みなるも、元と事業と道樂とを混同したるを以て其經營亦知るべきのみ。議會を新稅法を規定せる勅令を協贊するを拒み、國民の代表者のみ獨り此の如き稅法に協贊を與ふるの權利あるとを主唱せり。ルイ十六世は之に於て正義の床に由りて彼等を制壓し、之を再び追放に處しぬ。ために擾亂は到る處に蜂起し、ブリエンヌは一千七百八十九年五月一日ステエッ・ゼネラルを召集したり。既にして貴族の第二議會は貴族僧侶庶民の代議員の數を議決し三級共に同數なるべきことを決議せり。蓋し之に因るときは特權級は常に多數を占むべき理なり、即ち貴族僧侶の二段級は票決の際相合して庶民を抑壓すればなり。是に於て輿論の反抗は愈〻猛烈となり紛擾は愈〻激烈となり、ネックカルは再び財政の衝に當るべく呼び戻され、彼は遂に王をして第三段級の數は他二級を合したる數と同一なるべき事の勅令を發布せしめぬ。佛國革命は即ち此に其幕を開きぬ時は一千七百八十九年。

此一章を概括して之を見るに佛國思潮の流は全歐に瀰漫し改革の精神は全歐の人民を支配せる事を知る。即ち各國主は自らしんじて改革の嚮導者となり、積

62
396

弊を矯正し、特權恩典を破壞し、專ら國民の安寧幸福を增進せんことを努めたり。されど彼等の企圖したる處一に物質上の改革に止まり、之に因りて國家の歲入を增加し國主の權勢を增大ならしむることを得たるも未だ國民の道義心を高め其政治上の地位を上さんことを努めざりき。されば國民は國家の大數に位しながら猶其勢力は殆んど無きに等かりし。之一に政府が自己の改造に意を用ゐざりしと、國民が萬事を王者の危險に一任したるか政あり。佛の有爲なる閣臣は之を致さんとして遂に成効を見ず、ために國民は自ら其衝に當るに到れぬ。

西洋近世史終

西洋近世史 三

３１０４７７－０００－０

６２－３９６

西洋近世史

水口 鹿太郎　述

早稲田大學三十七年度
史學科第二學年講義

西洋近世史

水口鹿太郎

62
396